

高岡町埋蔵文化財調査報告書第35集

八反田・川子地区墓地群
八反田遺跡

県営ふるさと農道緊急整備事業（小山田地区）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 6

2005. 3

宮崎県高岡町教育委員会

高岡町埋蔵文化財調査報告書第35集

八反田・川子地区墓地群
八反田遺跡

県営ふるさと農道緊急整備事業（小山田地区）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 6

2005. 3

宮崎県高岡町教育委員会

献 辞

本書を、17世紀後半から現在に至るまでのあいだに、この地域で生まれ生活し、亡くなられたすべての人々に捧げます。



巻頭カラー1 遺跡遠景（南東から）



巻頭カラー2 真上から見た遺跡



巻頭カラー 3 八反田地区墓地群A区墓石配置状況



巻頭カラー 4 八反田地区墓地群C区墓石配置状況



巻頭カラー 5 八反田地区墓地群墓石配置状況



巻頭カラー 6 八反田地区墓地群土壌完掘状況



巻頭カラー 7 川子地区墓地群表面精査状況



巻頭カラー 8 川子地区墓地群土壌完掘状況

序 文

この報告書は、県営ふるさと農道緊急整備事業に伴い、平成12年度に実施した、八反田・川子地区墓地群と八反田遺跡における埋蔵文化財発掘調査の報告書であります。

この調査により、近世の墓地群、古代の遺物などが検出され、南九州の当時の歴史を解明するうえで多大な成果をあげることができました。

この発掘調査で明らかにされたものは、先人が残した私たちの文化遺産であり、これらの成果を活かすことが、我々に課せられた重大な責務と考えております。本書が町内に所在する文化財の保存に役され、また本町の学術資料として学校教育、社会教育などに幅広く活用頂ければ幸いに存じます。

尚、発掘調査を実施するにあたり、関係各者より頂いたご指導とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

平成17年 3 月

高岡町教育委員会
教育長 中山 芳教

例 言

- 1 本書は、県営ふるさと農道緊急整備事業に伴い、2000年度（平成12年度）に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告である。
- 2 八反田・川子地区墓地群より出土した古人骨について、その鑑定を峰和治氏（鹿児島大学）に依頼し、玉稿を賜った。それを、第IV章第1節に掲載している。
- 3 現場における測量・実測作業は、一部を（有）ジパング・サーベイに委託し、他を島田正浩・今城正広・藤木（廣田）晶子が行なった。
- 4 八反田・川子地区墓地群より出土した金属製品の保存処理および木材樹種同定、遺物成分分析を（株）吉田生物研究所に委託した。
- 5 遺物の実測・拓本・製図は、（高岡町教育委員会）の協力を得て、島田・藤木が行なった。金属製品の实測・製図の一部は、株式会社九州文化財研究所に委託した。
- 6 現場における写真撮影は、島田・藤木が行なった。
- 7 八反田遺跡の遺跡番号は335、八反田・川子地区墓地群の遺跡番号は336である。出土遺物は高岡町教育委員会に保管している。遺物の注記は、「遺跡番号－遺構番号/包含層層位－遺物取上番号」を基本とし、収蔵番号については、「報告書シリーズ番号＋報告書内遺物番号」としている。
- 8 本書の執筆は、第III章第1節2を島田が、第V章3と表3の墓碑を今城が、その他及び編集は、藤木が行なった。

凡 例

1. 法量の単位は、遺構は「m」、遺物は「cm」である。
2. 墓標の文字について、異体字や略字、旧字体は、現在の文字に直して表記した。
3. 墓石の型式については、第5図に示している。
4. 「第II章 八反田・川子地区墓地群の調査」で用いる用語は下記の意味を持つ。

墓石について

- 墓 碑・・・墓石に記される文字
- 墓 標・・・墓碑が記された本体部分
- 台 石・・・台座の石
- 花燈形・・・墓標正面の戒名を記す位置に一段掘り込みを入れた部分
- 蓮華文・・・正面墓碑の下の花卉文様
- 条 線・・・墓標の頭部に彫り込まれた数条の溝
- 刻 字・・・墓碑を薬研堀に掘り込むもの
- 墨 書・・・墓碑を墨で書くもの

地下遺構について

- 土 壙・・・遺体が埋葬された穴

目 次

本 文 目 次

第Ⅰ章	はじめに	15
第1節	調査の経緯と組織	15
第2節	遺跡の立地と周辺環境	15
第Ⅱ章	八反田・川子地区墓地群の調査	20
第1節	調査の経過と方法	20
第2節	墓石の調査	22
1.	A区の墓石	24
2.	B区の墓石	40
3.	C区の墓石	40
第3節	土壌の調査	54
1.	A区の土壌	54
2.	B区の土壌	78
3.	C区の土壌	80
4.	D区の土壌	83
5.	E区の土壌	84
第Ⅲ章	八反田遺跡の調査	92
第1節	調査	92
第Ⅳ章	分析	94
第1節	宮崎県高岡町八反田・川子地区墓地群出土の近世人骨について	94
第2節	八反田・川子地区墓地群出土木製品の樹種調査結果	101
第3節	八反田・川子地区墓地群出土材質不明遺物の成分分析	103
第Ⅴ章	まとめ	105

挿 図 目 次

第1図 遺跡分布図 ……………17	第36図 30号墓石 ……………41
第2図 周辺地形図 ……………19	第37図 31号墓石 ……………41
第3図 八反田・川子地区墓地群配置図…………21	第38図 A区墓石・土壙配置図…………54
第4図 A～D区墓石配置図 ……………22	第39図 9・10号土壙実測図（1/30）…………55
第5図 墓標の分類 ……………23	第40図 10号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図（2/3）…………55
第6図 12号墓石 ……………24	第41図 11号土壙実測図（1/30）…………56
第7図 14号墓石 ……………25	第42図 11号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図（2/3）…………56
第8図 8号墓石 ……………25	第43図 12号土壙実測図（1/30）…………57
第9図 23号墓石 ……………26	第44図 12号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図（2/3）…………56
第10図 24号墓石 ……………27	第45図 13号土壙実測図（1/30）…………57
第11図 21号墓石 ……………28	第46図 13号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図（2/3）…………58
第12図 18号墓石 ……………28	第47図 14号土壙実測図（1/30）…………58
第13図 19号墓石 ……………29	第48図 14号土壙出土貨幣拓影図（2/3）…58
第14図 16号墓石 ……………29	第49図 15号土壙実測図（1/30）…………59
第15図 17号墓石 ……………30	第50図 15号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図（2/3）…………58
第16図 7号墓石 ……………30	第51図 16号土壙実測図（1/30）…………59
第17図 22号墓石 ……………31	第52図 16号土壙出土貨幣実測図（2/3）…59
第18図 9号墓石 ……………31	第53図 17号土壙実測図（1/30）…………60
第19図 11号墓石 ……………32	第54図 17号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図（2/3）…………60
第20図 20号墓石 ……………32	第55図 18号土壙実測図（1/30）…………60
第21図 28号墓石 ……………33	第56図 19号土壙実測図（1/30）…………61
第22図 6号墓石 ……………33	第57図 19号土壙出土貨幣実測図（2/3）…61
第23図 13号墓石 ……………34	第58図 20号土壙実測図（1/30）…………61
第24図 10号墓石 ……………34	第59図 20号土壙出土貨幣実測図（2/3）…61
第25図 26号墓石 ……………35	第60図 21・22・23号土壙実測図（1/30）…62
第26図 27号墓石 ……………35	第61図 21号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図（2/3）…………62
第27図 1号墓石 ……………36	第62図 24号土壙実測図（1/30）…………63
第28図 15号墓石 ……………36	第63図 24号土壙出土貨幣拓影図（2/3）…63
第29図 3号墓石 ……………37	
第30図 2号墓石 ……………38	
第31図 5号墓石 ……………38	
第32図 4号墓石 ……………39	
第33図 25号墓石 ……………39	
第34図 32号墓石 ……………40	
第35図 29号墓石 ……………40	

第64図	25号土壙実測図 (1/30) ……63	(2/3) ……72	
第65図	26号土壙実測図 (1/30) ……63	第95図	40-2号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……72
第66図	26号土壙出土遺物実測図 (1/30) ……64	第96図	41号土壙実測図 (1/30) ……72
第67図	29号土壙実測図 (1/30) ……64	第97図	42号土壙実測図 (1/30) ……72
第68図	29号土壙出土貨幣実測図 (2/3) ……64	第98図	42号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……73
第69図	30号土壙実測図 (1/30) ……65	第99図	44号土壙実測図 (1/30) ……73
第70図	30号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……65	第100図	45号土壙実測図 (1/30) ……73
第71図	31号土壙実測図 (1/30) ……65	第101図	45号土壙出土貨幣実測図 (2/3) ……73
第72図	31号土壙出土遺物実測図 (1/30) ……65	第102図	48号土壙実測図 (1/30) ……74
第73図	31号土壙出土遺物実測図 (2/3) ……66	第103図	48号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……74
第74図	31号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……66	第104図	49号土壙実測図 (1/30) ……74
第75図	32号土壙実測図 (1/30) ……66	第105図	49号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……74
第76図	33号土壙実測図 (1/30) ……67	第106図	50号土壙実測図 (1/30) ……75
第77図	33号土壙出土遺物実測図 ……67	第107図	50号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……75
第78図	33号土壙出土貨幣実測図 (2/3) ……67	第108図	51号土壙実測図 (1/30) ……75
第79図	34号土壙実測図 (1/30) ……67	第109図	51号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……76
第80図	34号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……68	第110図	52号土壙実測図 (1/30) ……76
第81図	35号土壙実測図 (1/30) ……68	第111図	52号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……76
第82図	36号土壙実測図 (1/30) ……68	第112図	53号土壙実測図 (1/30) ……77
第83図	37号土壙実測図 (1/30) ……69	第113図	53号土壙出土遺物実測図 (2/3) ……77
第84図	37号土壙出土遺物実測図 (2/3) ……69	第114図	53号土壙出土貨幣実測図 (2/3) ……77
第85図	37号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……69	第115図	54号土壙実測図 (1/30) ……77
第86図	38号土壙出土遺物実測図 (1/30) ……69	第116図	54号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……78
第87図	38号土壙実測図 (1/30) ……69	第117図	55号土壙実測図 (1/30) ……78
第88図	38号土壙出土遺物実測図 (2/3) ……70	第118図	B区墓石・土壙配置図 ……78
第89図	39号土壙実測図 (1/30) ……70	第119図	27号土壙実測図 (1/30) ……79
第90図	39号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) ……70	第120図	28号土壙実測図 (1/30) ……79
第91図	40-1号土壙実測図 (1/30) ……71	第121図	46号土壙実測図 (1/30) ……79
第92図	40-1号土壙出土貨幣実測図 (2/3) ……71	第122図	C区墓石・土壙配置図 ……80
第93図	40-2号土壙実測図 (1/30) ……71		
第94図	40-2号土壙出土遺物実測図		

第123図	1号土壙実測図 (1/30).....	80	第137図	E区土層断面図.....	85
第124図	2号土壙実測図 (1/30).....	81	第138図	6号土壙実測図 (1/30).....	85
第125図	2号土壙出土貨幣拓影図 (2/3).....	81	第139図	6号土壙出土遺物実測図 (1/3).....	85
第126図	3号土壙実測図 (1/30).....	81	第140図	6号土壙出土遺物実測図 (2/3).....	86
第127図	3号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3).....	82	第141図	6号土壙出土貨幣実測図及び 図及び拓影図 (2/3).....	86
第128図	4号土壙実測図 (1/30).....	82	第142図	7号土壙実測図 (1/30).....	86
第129図	4号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3).....	82	第143図	7号土壙出土遺物実測図 (1/3).....	86
第130図	5号土壙実測図 (1/30).....	83	第144図	7号土壙出土貨幣拓影図 (2/3).....	86
第131図	D区土壙配置図.....	83	第145図	8号土壙実測図 (1/30).....	86
第132図	43号土壙実測図 (1/30).....	84	第146図	8号土壙出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3).....	86
第133図	43号土壙出土遺物実測図 (1/3).....	84	第147図	八反田遺跡遺物分布図.....	92
第134図	47号土壙実測図 (1/30).....	84	第148図	八反田遺跡出土遺物実測図 (1/3).....	93
第135図	47号土壙出土貨幣実測図 (2/3).....	84			
第136図	E区土壙配置図.....	85			

表 目 次

表1	墓石構成石観察表.....	42	の 人骨資料.....	99	
表2	墓標年代別集計表.....	42	表9	下肢骨の計測値 (mm).....	99
表3	墓標観察表.....	53	表10	高岡町八反田・川子地区墓地群 出土木製品同定表.....	101
表4	土壙観察表.....	87	表11	調査資料一覧.....	103
表5	遺物観察表.....	89	表12	銀色部分の成分分析結果表.....	103
表6	貨幣観察表.....	90	表13	元素サイクル.....	104
表7	八反田遺跡出土遺物観察表.....	93	表14	報告書登録抄.....	111
表8	八反田・川子地区墓地群出土				

第I章 はじめに

第1節 調査の経緯と組織

1 調査経緯

遺跡は、宮崎県東諸県郡高岡町大字上倉永311-4番地外に所在する。調査の契機は、まず、平成11年2月に文化財の有無についての問い合わせがあった。そして同年4月に、ふるさと農道建設に伴う仮設道の設置について、宮崎県中部農林振興局（以下県振興局）と町教育委員会とで、埋蔵文化財の取り扱いについての協議が行なわれた。その中で全体計画が示され、仮設道も含めて周知の遺跡にかかることから、路線内の分布調査を実施することとなった。5月に町教育委員会が宮崎県教育委員会文化課（以下県文化課）立ち会いのもと分布調査を行ない、さらに6月29日から7月15日で確認・試掘調査を行ない、8遺跡14箇所遺跡の保存状況が良好であることがわかった。その結果をもとに7月末から8月にかけて県振興局、高岡町農村整備課、県文化課、町教育委員会とで協議を行った。その結果、八反田・川子地区墓地群および八反田遺跡の調査を行なうこととなった。

調査期間は、平成12年7月8日から10月11日までである。

2 調査組織

調査主体 高岡町教育委員会

調査

2000年度（平成12年度）

教育長	中山 芳教
社会教育課長	四位 行治
文化財係長	黒木 敏幸
主査	島田 正浩
主事	今城 正広
主事	廣田 晶子

報告

2004年度（平成16年度）

教育長	中山 芳教
社会教育課長	小岩崎 正
文化財係長	島田 正浩
主任主事	今城 正広
主事	藤木 晶子

また、調査を実施するにあたり、地権者の方をはじめ関係各位のご理解とご協力を頂いた。また、発掘調査から整理報告に至るまで、峰和治（鹿児島大学）、大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）、橋口亘（坊津町教育委員会）、松林豊樹・和田理啓（宮崎県文化課）、赤崎広志・福田泰典・柳田晴子・丹俊詞（宮崎県埋蔵文化財センター）各氏のご指導・ご助言を得ている。記して深謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

第2節 遺跡の立地と周辺環境

1 地形的環境

高岡町は山林が70%以上を占める。その町中央を蛇行しながら大淀川が東流し、それによって形成された河岸段丘からその東側に広がる宮崎平野を一望できる。この大淀川に起因する自然環境が大きく人々の生活を左右していたことはいうまでもなく、しかるに歴史的要因にも導かれていた。高岡町の地

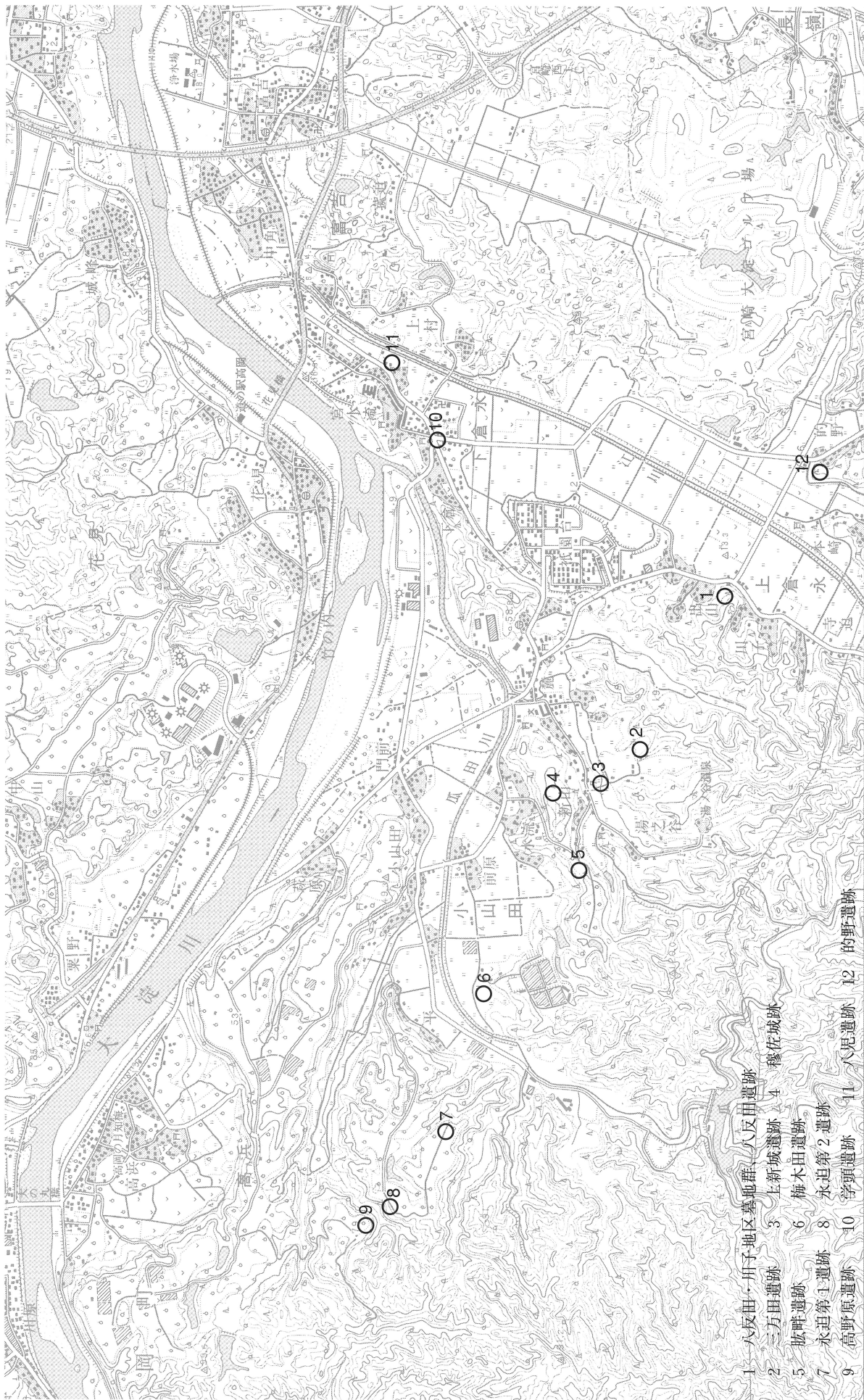
形について合原敏幸氏⁽¹⁾は「高岡町南部の高岡山地中央部及び東部には白亜紀の四万十累層群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、一部玄武岩、凝灰岩などの塩基性岩類が含まれる。内之八重付近の砂岩頁岩互層中には塩基性岩類に伴って、厚さ1 m～2 mのチャートが見られる。高岡山地西部には、古第三紀の四万十累層群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、高岡山地を南北に横切る高岡断層によって前述の白亜紀の層に接している。高岡町の中心部付近及び高岡山地北部には、新第三紀の宮崎層群に属する砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層が広い範囲で分布している。本層は四万十累層群を傾斜不整合の覆う海成層で、貝、カニ、ウニ等の化石を含む。さらに、町中心部付近に及び西部は宮崎層群を不整合に覆い第四紀の礫、砂、及び粘土からなる段丘堆積物、主にシラスからなる始良噴出物、及び主に礫、砂シルトからなる沖積層がみられる。段丘堆積物、始良火山噴出物は急傾斜とその上の広い平坦面や暖斜面から形成される台地状の地形を有している。沖積層は、大淀川、浦之名川、内山川、飯田川等の河川流域沿いに分布している。」(高岡町埋蔵文化財調査報告書12集より抜粋)としている。

(1) 高岡町役場職員

2 歴史的環境

旧石器時代 遺跡の多くは台地あるいは河岸段丘上で確認されている。町内最古の遺跡は、小山田・高浜地区の一連の河岸段丘状で確認されている。高野原遺跡第4地点と永迫第1遺跡、永迫第2遺跡である。高野原遺跡では、9層(始良Tn火山灰下位)から、接合資料、スクレイパーや石核など含む石器群と、日東産黒耀石製ラウンドスクレイパー1点からなる石器群とが出土した。永迫第1遺跡ではナイフ形石器製作ブロックが検出された。始良Tn火山灰上位の遺跡は、向屋敷遺跡で礫群(報告原文では集石遺構)とともにナイフ形石器やスクレイパーが出土した。高野原遺跡第1・2地点でも、層位的に不安定ながらナイフ形石器、スクレイパーといった遺物の出土がある。永迫第1遺跡では剥片尖頭器が出土している。また、野尻町に近い一里山地区では、剥片尖頭器が採集されたほか、小田元第2遺跡で、始良Tn火山灰直上から細石刃文化期までの4時期の旧石器文化層が確認され、高岡町内における旧石器時代編年作業にとっても重要な資料となった。久木野遺跡第8地点では、ナイフ形石器、台形石器群が3文化層確認された。

縄文時代 草創期資料は、茶屋原遺跡で爪形文土器が出土したのみである。早期の発掘調査例は多く、天ヶ城跡、宗栄司、久木野(1区～4区)、橋山第1、橋上、八久保第2、榎原、中原、的野、高野原、永迫第1、永迫第2の各遺跡が挙げられる。土器の様相をみると、天ヶ城跡では、押型文土器と桑ノ丸式土器が大半を占め、その両者の折衷土器も出土している。橋山第1遺跡は、前平、吉田、下剥峰、桑ノ丸、平椀、塞ノ神、苦浜、押型文等の各型式の土器が出土した。また、永迫第2遺跡ではアカホヤ火山灰下位から珥状耳飾が出土した。永迫第1遺跡では帖地型石鏃製作ブロックが確認された。各遺跡の遺構は、集石遺構や陥し穴状遺構が中心で掘り込みや柱穴をもつ住居は現時点では検出していない。前期は久木野遺跡第1区、永迫第2遺跡などで確認されている。中期は同じく久木野遺跡で春日、大平の各型式のものが出土している。後期は的野遺跡で阿高系・岩崎下層式、綾式土器などが出土した。橋山第1遺跡では阿高系の土器や疑似縄文の土器が出土した。さらに久木野遺跡では円形竪穴住居跡とともに北久根山式が出土している。城ヶ峰遺跡では市来式や北久根山式が出土し



第1図 遺跡分布図

た。晩期は黒色磨研土器が学頭遺跡から出土している。

弥生時代 後期資料の調査例が多く、前～中期の調査例は少ない。標高15m程の微高地状のところに位置する学頭遺跡からは、断面V字状を呈する溝状遺構や竪穴住居跡が検出された。舌状の丘陵先端部の位置する野遺跡では、後期の土壙墓が検出された。

古墳時代 集落遺跡の調査は八見遺跡や高岡麓遺跡第5地点がある。高岡麓遺跡では2軒の竪穴住居跡が検出され5世紀中頃に比定されている。また、八見遺跡は側壁にカマドが付設された竪穴住居跡（7世紀代）などが12軒以上検出された。両遺跡とも標高がほぼ同じで大淀川の氾濫源である低地に位置しており、該期集落の一端をみる事が出来る。次に、墳墓遺跡の調査は久木野地下式横穴墓群がある。これまで4基の調査がおこなわれ、人骨とともに鉄斧や玉類が出土し6世紀前半としている。また、町内には3基の円墳（県指定古墳）がある。その古墳付近で、耕作中に壺が2点と鉄製品が発見されている。

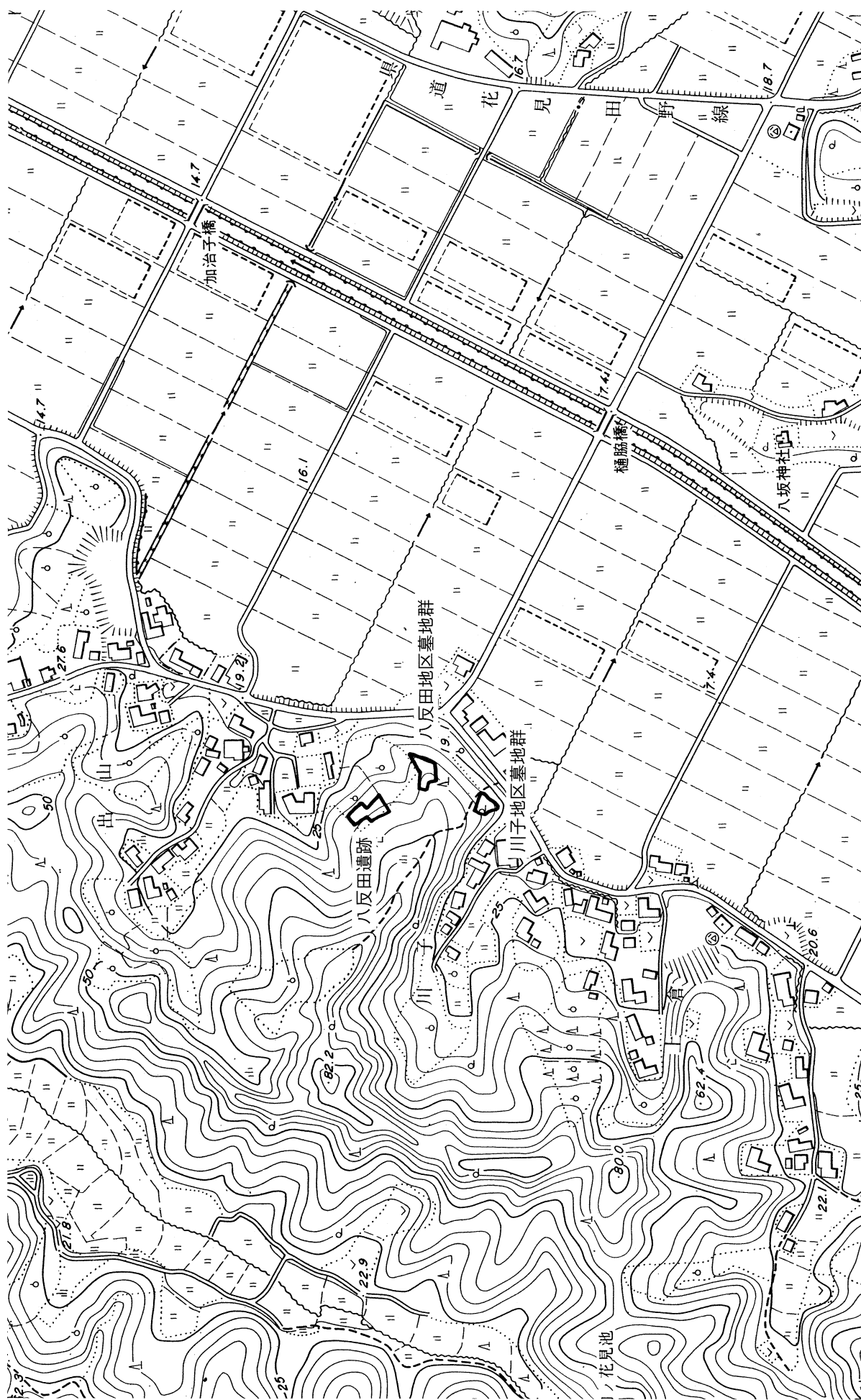
古代 高岡周辺は承平年間（931～938年）の和名抄によると、その当時は「穆佐郷」といわれていた。それより遡る時代の遺跡が最近の調査で確認されている。一つは蕨野遺跡で、大淀川北岸の丘陵（大字花見）に位置し、9世紀後半の土師器の椀、皿などを生産した焼成遺構が6基以上検出された。三生江遺跡や野遺跡からは同時期の越州窯系青磁椀や緑釉陶器などが出土している。また、宗栄司遺跡や二反野遺跡で土師器椀が出土している。古代の墳墓としては、八見遺跡から胡洲鏡、鈴、石鍋等を副葬した土壙墓が検出されている。

中世 建久図田帳によると高岡は、12世紀には「島津庄穆佐院」といわれていた。その後、南北朝期を経て、島津氏と伊東氏の対立を迎える。その中心となったのが穆佐城である。穆佐城は足利尊氏が九州の拠点としたことから始まる。その後、島津久豊・忠国の居城、そして伊東氏48城のひとつとなっていく。平成3年には穆佐城の縄張り調査を実施し、その成果として、南九州特有の特徴をもつとともに機能分化のみられる山城であることがわかった。そのような中で、穆佐城周辺の大淀川沿いにも小規模な山城が点在し、戦国時代から近世へと移っていく。

近世 中世までは高岡の中心地は穆佐城周辺だったのに対して江戸の時期になると天ヶ城周辺に一変する。鹿児島藩は、天ヶ城と穆佐城の裾地に多くの郷士を移住させ麓を形成させた。そして、綾、倉岡とともに関外四ヶ郷として、特に高岡郷はその中心として鹿児島藩の東方の防衛の要として発展する。高岡の地頭仮屋を中心に広がる高岡麓遺跡は、計画的な街路設計がなされ、郷士屋敷群と町屋群に分割されている。調査はすでに12箇所以上で実施され、町屋を調査した第1地点では大火跡と思われる焼土層の下から素堀の井戸や土坑を検出した。さらに、第5地点では郷士屋敷群の一角を調査し建物跡や陶磁器類を検出、第8地点では武家門の下部構造を明らかにした。既刊の近世期の発掘調査は高岡麓遺跡だけに留まっているが、道路脇などの石塔類からも当時の状況を知ることができる。

3 遺跡の立地

八反田・川子地区墓地群は、宮崎層群を起源とする礫層からなる丘陵上に位置する。墓地群からは、南に広がる平野部や東流する江川を一望できる。八反田遺跡は、墓地群から北西側へ続く丘陵の東斜面に位置する。江川流域の遺跡には、野遺跡、学頭遺跡、八見遺跡などがある。



第2図 周辺地形図 (S=1/5,000)

第Ⅱ章 八反田・川子地区墓地群の調査

第1節 調査の経過と方法

1 墓地改葬と調査対象時期について

八反田・川子地区墓地群は、近世から昭和50年代まで使用されていた墓地である。その後、共同墓地へ移設する事となる。上倉永字林昌1837-1外に共同墓地が建設され、昭和57年8月17日、県から墓地経営の許可を受ける。縁故者のわかる墓については改葬が行なわれ、林昌共同墓地へと移された。従って、遺跡に残存する墓は、すべて無縁墓である。それらの無縁墓のうち、近世のものを対象に、外表遺構である墓石と、地下遺構である土壌の発掘調査を行なった。

2 墓地群の位置と細分

八反田・川子地区墓地群は、字八反田と字川子にある2カ所の墓地群の総称である(第3図)。八反田地区は、4つの墓域(地区)に分けることができ、最も広い地区をA区、その東に位置する地区をB区、南に位置する地区をC区、西側の地区をD区とする。さらに、調査範囲からは外れるが、D区の西側に尾根に沿った形で比較的新しい墓地が形成されている。これらの墓地へと登る墓道は八反田集落側である北側に登り口が設けられている。墓道はB区の手前で分岐し、B区の西側を通りA区やD区へと続く道と、B区の東側を通りC区へ続く道とに分かれる。主要墓道は前者のA区を通る道である。

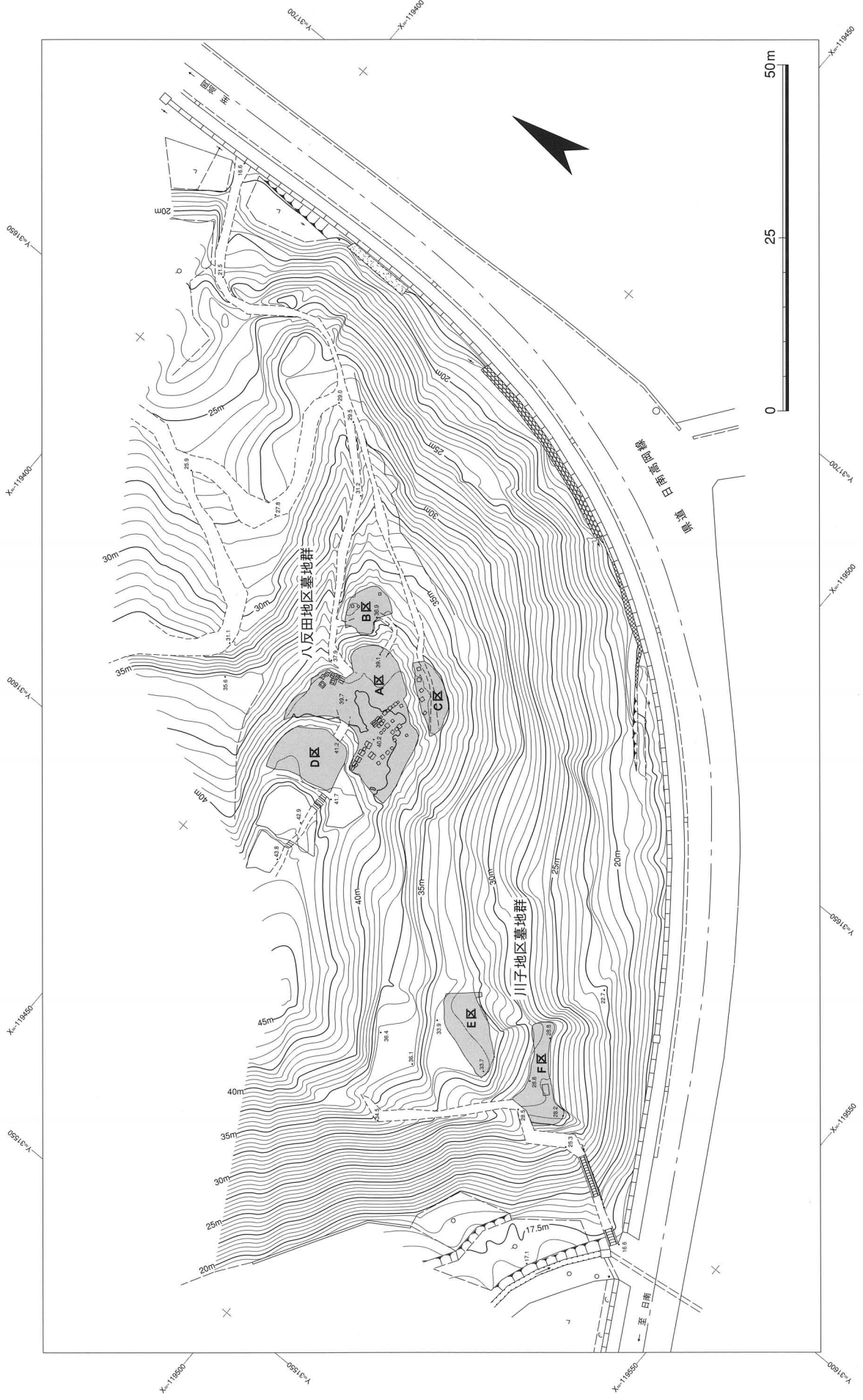
川子地区は、上段のE区、下段のF区に分けることが出来、E区の上段にも調査対象範囲外の墓地がある。墓地には、川子地区の集落側から登る階段が設けられている。

3 調査抄録

平成12年7月8日から墓地群周辺の伐採・除草、調査用杭打ちなどを行った。19日から墓地群地形測量を始め、24日に墓石の移動といった本格的な調査を開始した。作業員駐車場として、墓地群下の土地を借りた。また、作業率と衛生面を考慮した水道・ベルトコンベアー使用のための電気を設置した。墓地内には近代以降の墓石もかなりあり、近世墓石のうち位置の復元ができないものとともに、地権者の指定した調査範囲外に移動した。移動は、危険な作業であるため、墓石専門の業者に依頼した。その際に、近世墓標の文字は全て記録した。緊急を要する調査で時間がなかったため、対空標識を用いたデジタルカメラによる撮影を行ない、図化は室内作業で行なった。復元できる墓石については元の位置に戻し、個別の写真撮影と実測を行なった。墓石の実測は業者に委託した。並行して、重機及び人力での表土剥ぎを行ない、墓石の検出状況の空中写真撮影を実施した。

8月22日、全ての墓石を移動し、土壌の検出を開始した。近年の改葬によって掘られた穴の中に大量の墓石が廃棄されておりその撤去作業をチェーンブロックなどを使って行なったが、予想以上に困難を極めた。また、コンクリートの円筒形容器や骨壺、衣類などが見つかったが、以下に記す様に、その都度、県中部農林振興局担当者・警察・保健所にそれぞれ連絡し、指示に従い対処した。

D区掘削中にコンクリート製円筒状容器と蓋が検出された。県保健所に連絡し、8月29日に、同職員

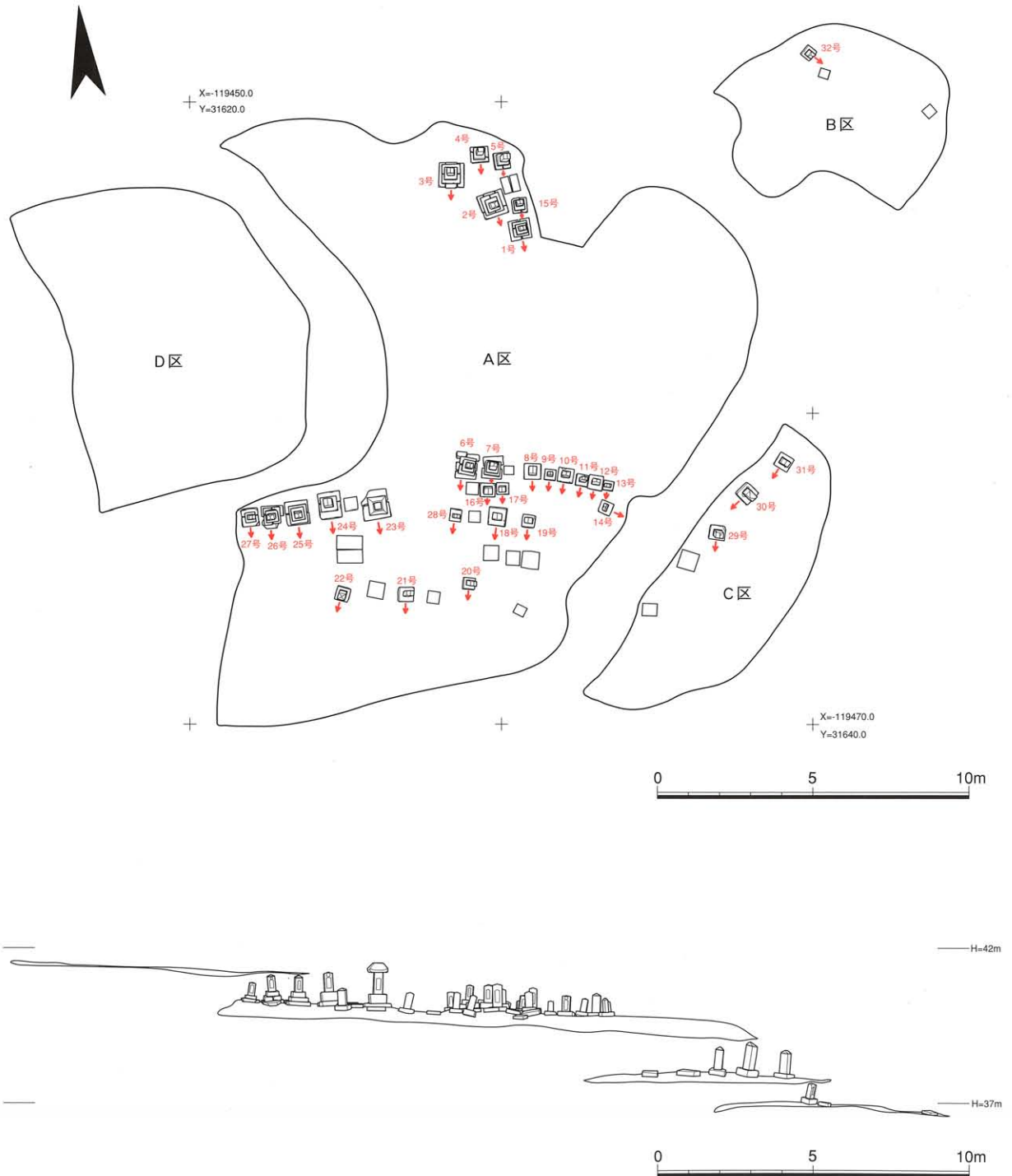


第3図 八反田・川子地区墓地区群配置図

2名が来跡。消毒液3本を容器の中と周辺に流す処置を行なった。①この容器やその他の墓の菌については心配しなくても良いこと、②周辺は発掘調査で触らない方がよいこと、③土中は酸素が少なく破傷風菌が繁殖し易いため手袋を付けて作業した方がよいこと、などの指導を受けた。

また、同日、E区より、骨壺と衣服、歯が出土した。骨壺は、地区の住民の方が共同墓地への改葬を行なわれた。高岡警察署に連絡し、9月4日、同職員1名が来跡。以前墓地であった場所のため、衣類とともに出土した歯については、遺失物法には触れないと指導があった。

土壌調査中は、感染防止のため、噴霧器による機材の消毒や石けんによる手洗いを徹底した。土壌の



第4図 A～D区墓石配置図

掘削中に、未改葬の近代以降と考えられる人骨も確認され、それらの土壌は、掘削を中止した。近代以降と考えられた人骨やコンクリートの円筒形容器は、その位置を示した図面とともに、調査終了後、そのままの状態、中部農林振興局に引き渡した。整理作業中に明治以降の所産と判明した土壌（6号土壌）は本書に掲載している。9月6日に、B区で新しい人骨1体全体が発見された時は、翌週14日に、警察に報告を行なった。特に指導はなかった。この段階で当初予定していた9月中の調査終了は困難とわかり、中部農林振興局に10月中旬までの調査期間延長を申し出、承諾を得た。

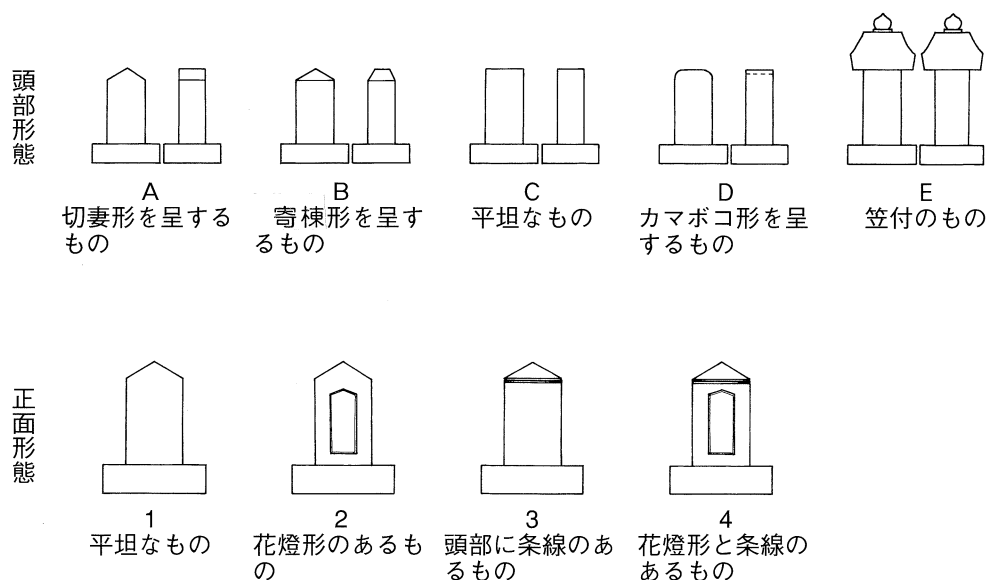
本来の目的である近世土壌は表土をさらに掘り下げなければ検出できず、人力と重機によって掘削を続けた。いくつかの土壌からは古人骨が出土した。古人骨については専門家に持ち上げ方の指導を仰いだ。その他、簪・キセル・貨幣などが副葬品として納められていた。土壌の完掘後、個別の写真撮影と実測を行ない、10月5日に、2度目の空中写真撮影を行なった。10月11日に墓地群の調査を終了した。

第2節 墓石の調査

墓標と台石とが組み合い、墓石の位置が復元出来たものは、計32基確認された。すべて八反田地区のものであり、川子地区では皆無であった。内訳は、A区28基、B区1基、C区3基である（第4図）。これらの墓石は、現場で1/5の実測を行なった。但し、墓碑については、写真測量したものを整理段階で図化した。掲載している個別の墓石実測図は、墓標の正面に合わせて台石のずれを一部修正した。

位置復元が出来ない墓標は、すべての地区で発見された。その内訳は、A区32基、B区7基、C区2基、D区32基、E区33基、F区8基、八反田地区北斜面1基で、計115基を数える。これらの墓標については、調査時に正面と側面を写真測量し、整理作業の段階でデジタル図化まで行なった。本書では「表3 墓標観察表」に寸法や墓碑を記し、図面は掲載しなかった。表3はすべての墓標を年代順に並べている。

墓石の構成は、まず台石が1段のもの、2段のもの、3段のものがある。さらに、墓標の上位に笠が



第5図 墓標の分類模式図

乗るものが確認されている。それらの墓標を除いた墓石の構成石の寸法を「表1 墓石構成石観察表」に示す。

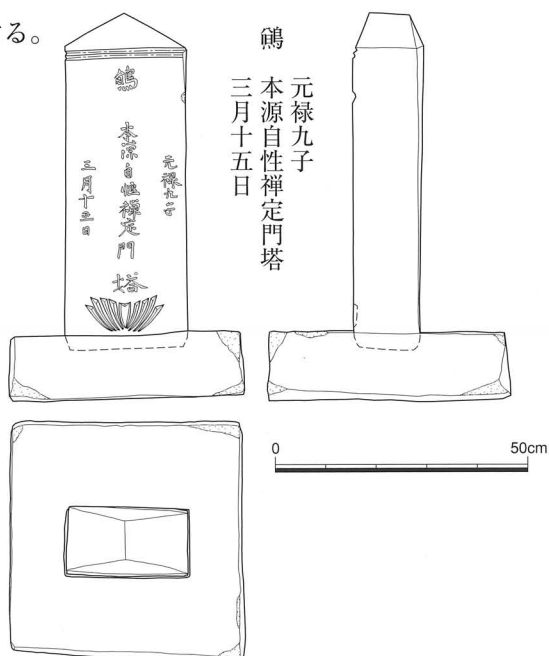
墓標を形態によって分類した(第5図)。まず、墓標の頭部形態で、A切妻形、B寄棟形、C平坦、Dカマボコ形に分類できる。C平坦は、上位に笠が付くものがあり、笠付きをEとした。また、墓標の正面形態で、1平坦なもの、2花燈形を有するもの、3条線を有するもの、4花燈形と条線を有するものの4タイプに分けることが出来る。A~Eと1~4を組み合わせ、A-1類(頭部形態が切妻形で、正面形態が平坦なもの)の様に標記している。分類結果を年代別に表したものが、「表2 墓標年代別集計表」である。

1 A区の墓石

A区の墓石は28基が確認され、南側と北側の大きく2カ所に分かれていた(第4図)。墓石間の距離はかなり狭いものもあり密接している墓石もあった。調査によって判明した土壌との位置関係をみると、土壌の上位に墓石が位置するものとそうでないものがある。さらに墓標32基と台石が墓域の端に積まれていた。このようなことから、墓石の配置が、墓作成当時の位置を保っているとは考えにくく、墓石の移動が行なわれたと考えられる。立っている墓石の墓標に記されている年代と配置を調べた結果、1690年代~1760年代までの墓石が南側に、1770年代~1860年代のものが北側に配置してある。おそらく、1770年代に墓石の移動を行ない、新しい墓を掘る空間を作ったのだろう。さらに、後世になって、B区の西側を通りD区へと登る際の墓道として利用するため、1770年代以降の墓石を北側に移動し、現在の配置状況になったと考えられる。以下、墓石を年代順に掲載する。

12号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.76mである。台石は幅0.41m奥行0.48mを測る。墓標の形態はB-3類である。戒名の下に蓮華文を有する。



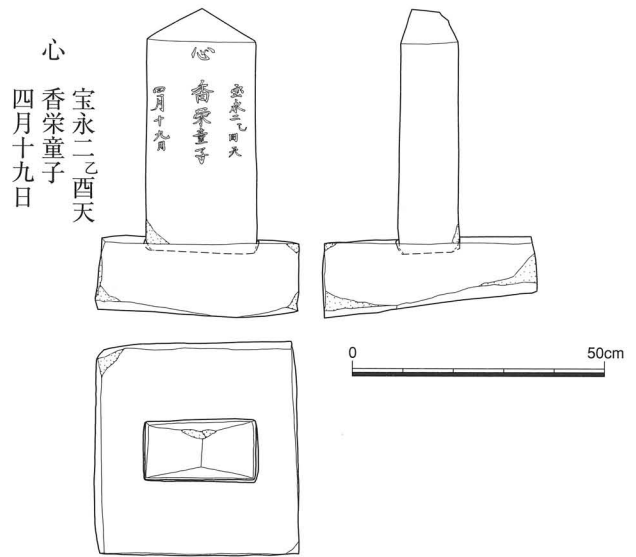
第6図 12号墓石(1696年)



12号墓石



14号墓石



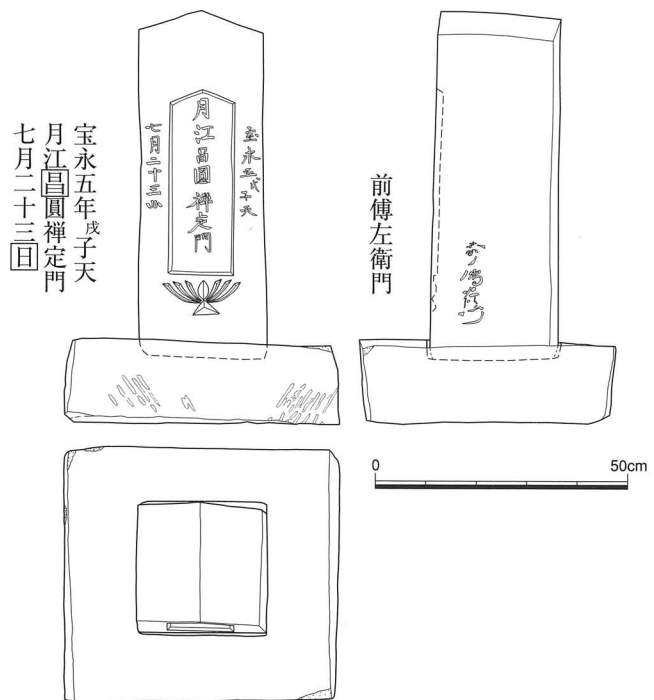
第7図 14号墓石 (1705年)

14号墓石

南側の墓石群であり、正面を東に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.61m、台石は幅0.41m奥行0.42mを測る。墓標の形態は、B-1類である。子供の墓である。



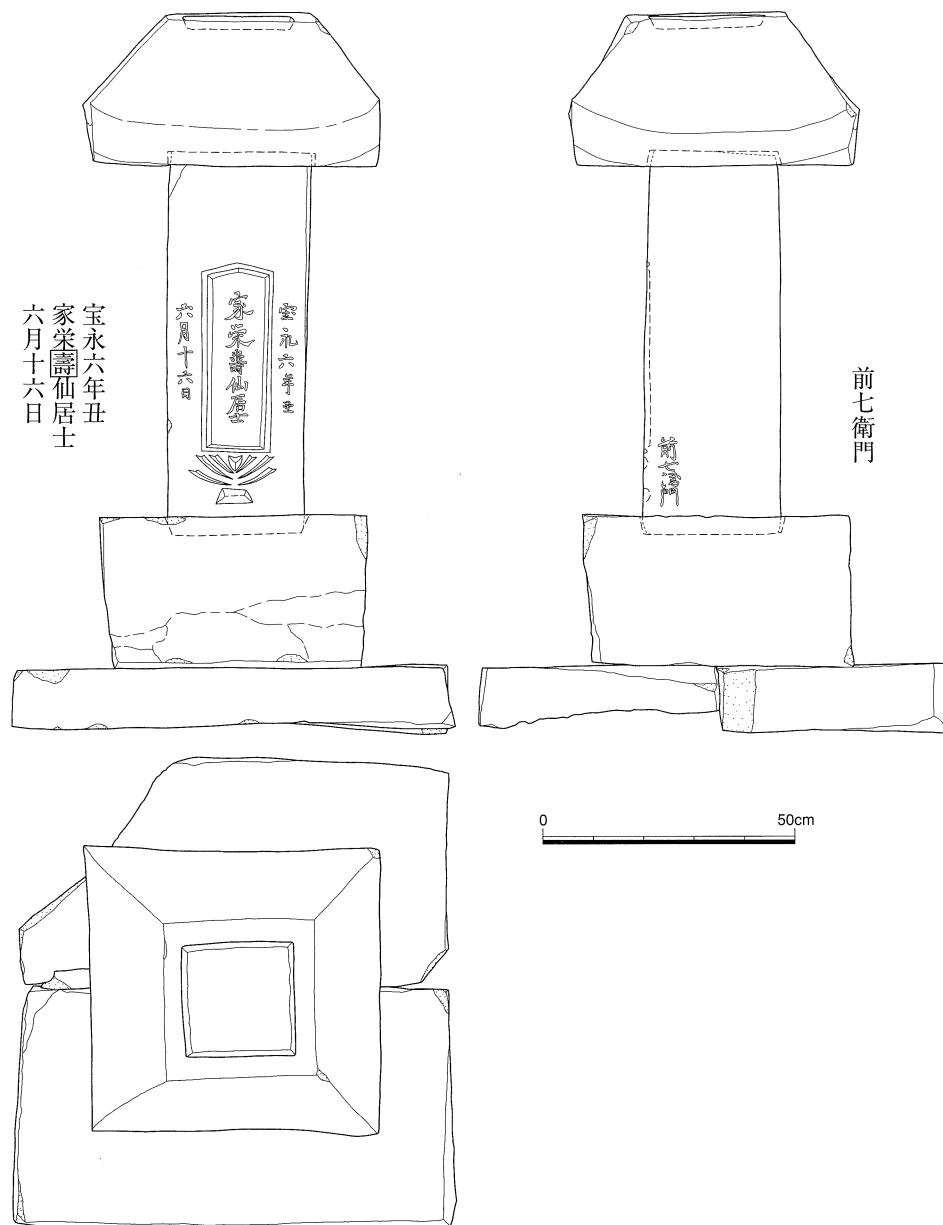
8号墓石



第8図 8号墓石 (1708年)

8号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.71m、台石は幅0.55m奥行0.50mを測る。墓標の形態は、A-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



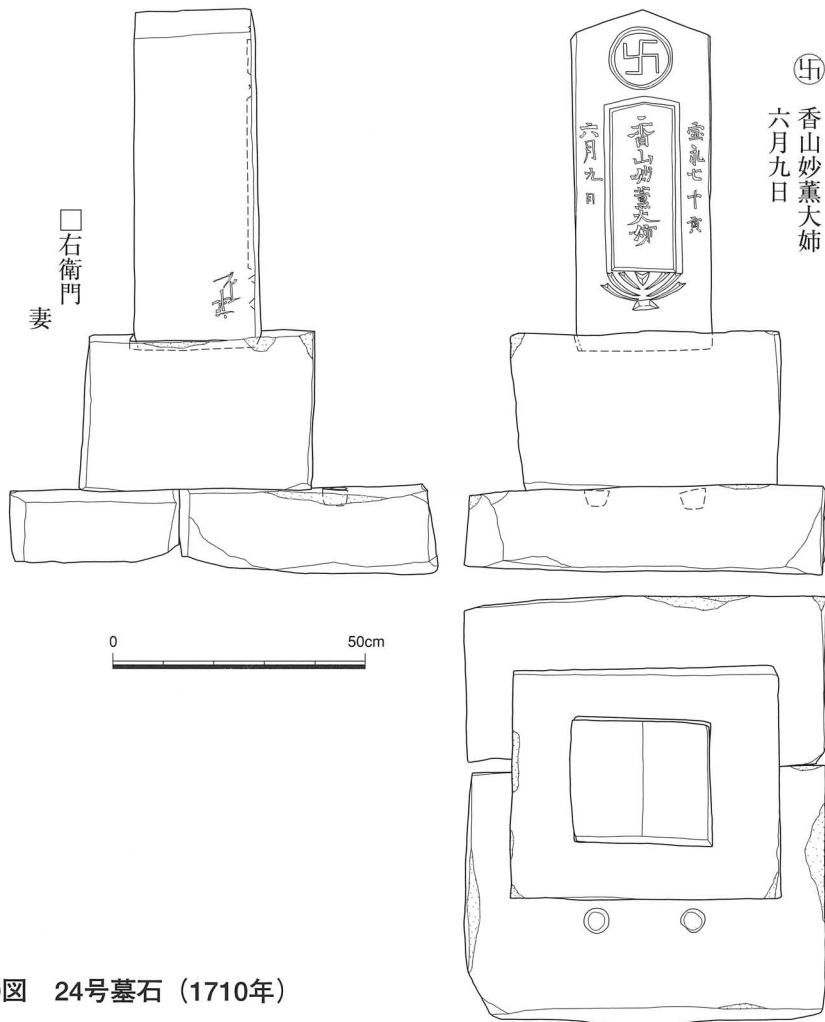
第9図 23号墓石 (1709年)

23号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標、笠で構成される。笠の上の宝珠はなくなっていた。墓石の全体高は1.43mである。1段目の台石は高さ0.29m幅0.53m奥行0.53mと厚みがある。2段目の台石は前後の2枚で構成される。幅0.88m奥行0.94mを測る。笠の寸法は、高さ0.3m幅0.58m奥行0.57mである。墓標の形態は、E-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。

24号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は1.11mである。1段目の台石は高さ0.31m幅0.54m奥行0.46mを厚みのある石である。2段目の台石は幅0.71m奥行0.85mで、前後2枚で構成される。前側の台石に花を挿入する孔が2カ所に設けられている。墓標の形態はA-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



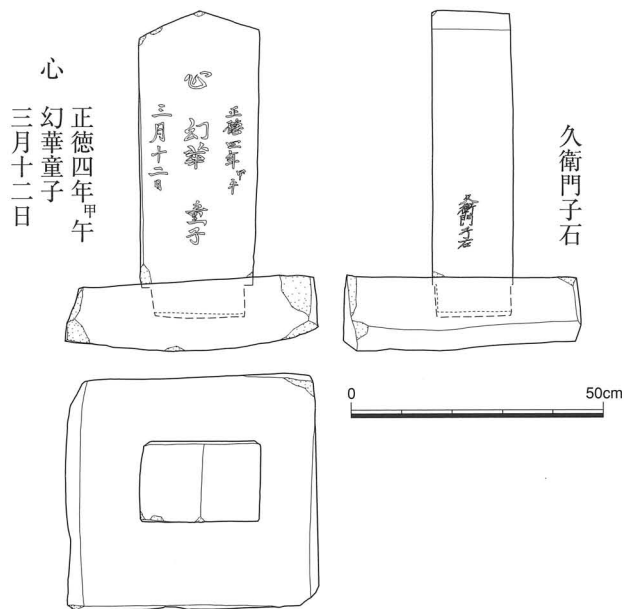
第10図 24号墓石 (1710年)



23号墓石



24号墓石



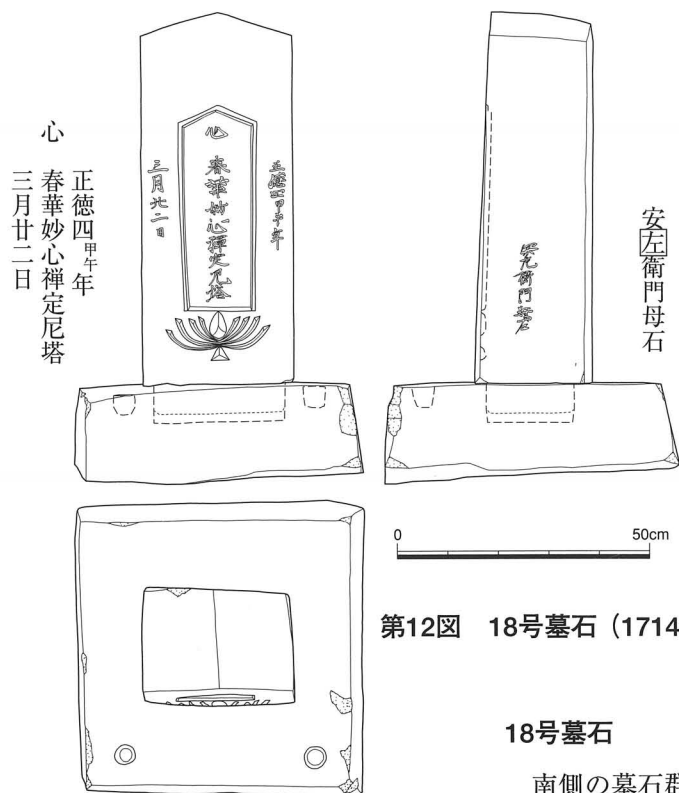
第11図 21号墓石 (1714年)



21号墓石

21号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.67mである。台石は幅0.50m奥行0.45mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



第12図 18号墓石 (1714年)



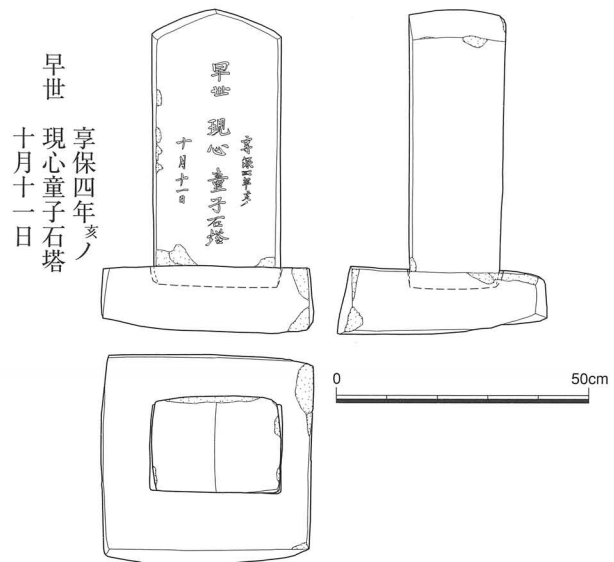
18号墓石

18号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.93mである。台石は幅0.57m奥行0.59mを測る。台石前方に花挿入の孔が2カ所に設けられる。墓標の形態はA-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



19号墓石



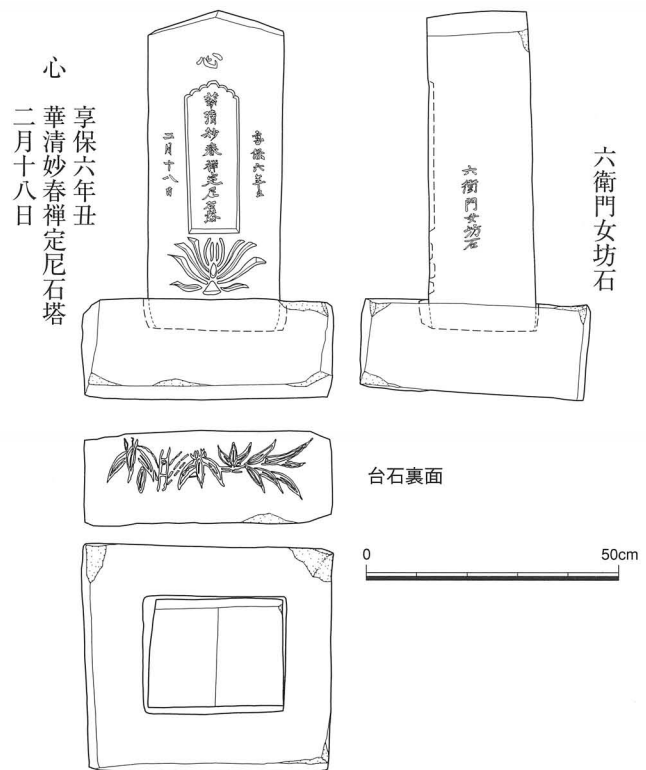
第13図 19号墓石 (1719年)

19号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.63mである。台石は幅0.42m奥行0.41mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



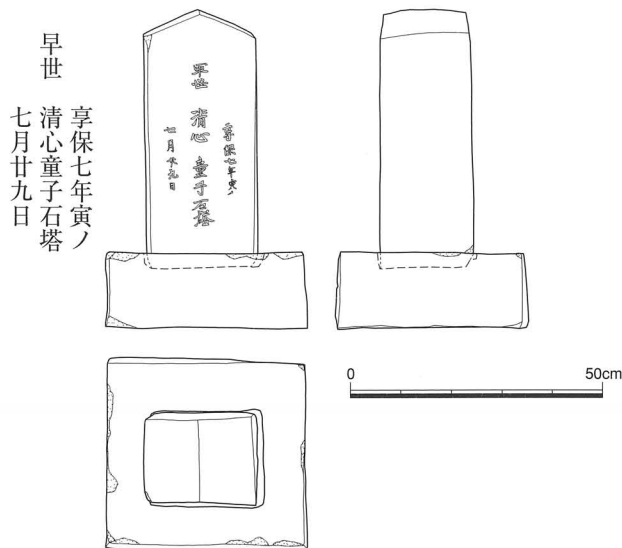
16号墓石



第14図 16号墓石 (1721年)

16号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.77mである。台石は幅0.50m奥行0.44mを測る。台石裏面に竹の文様が彫り込まれている。墓標の形態はA-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



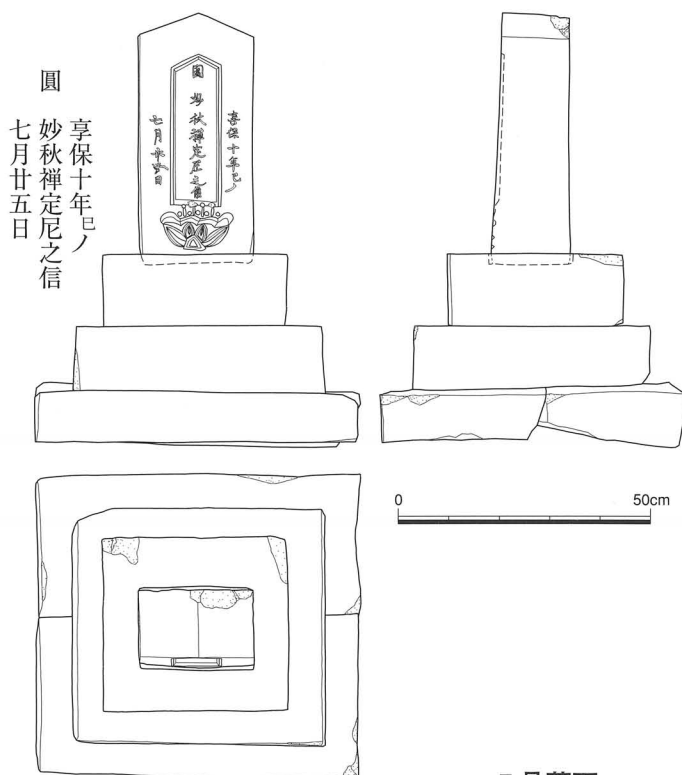
第15図 17号墓石 (1722年)



17号墓石

17号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.63mである。台石は幅0.39m奥行0.38mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



第16図 7号墓石 (1725年)



7号墓石

7号墓石

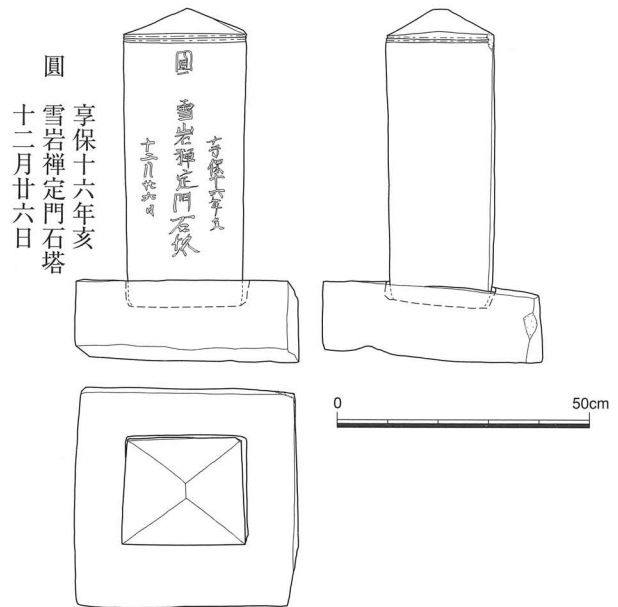
南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.81mである。台石は一段目幅0.36m奥行0.34m、二段目幅0.50m奥行0.47m、三段目は幅0.64m奥行0.61mを測り、前後2枚の石で構成される。墓標の形態はA-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



22号墓石

22号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.70mである。台石は幅0.44m奥行0.42mを測る。墓標の形態はB-3類である。



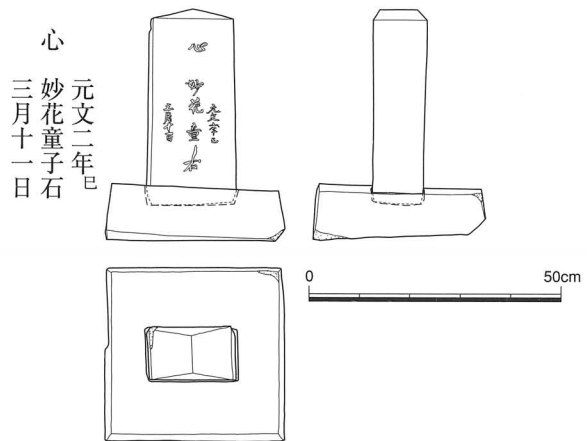
第17図 22号墓石 (1731年)



9号墓石

9号墓石

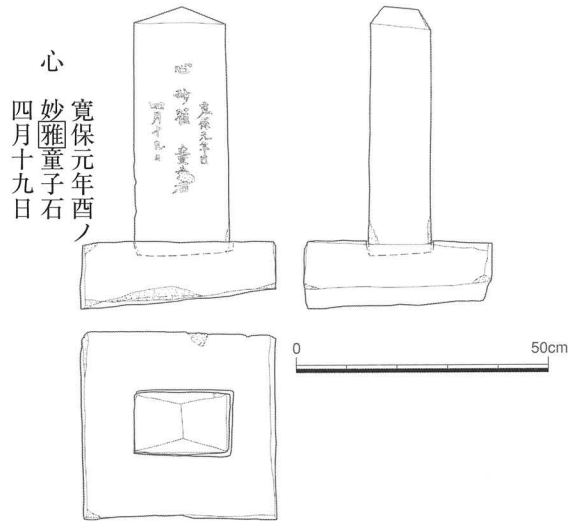
南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.46mである。台石は幅0.35m奥行0.35mを測る。墓標の形態はB-1類である。子供の墓である。



第18図 9号墓石 (1737年)



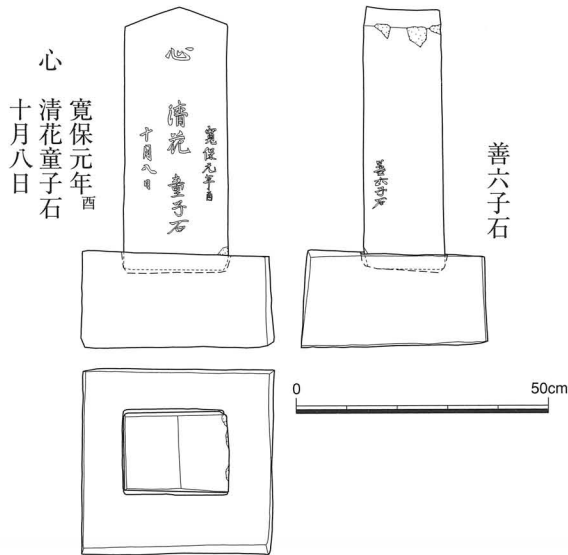
11号墓石



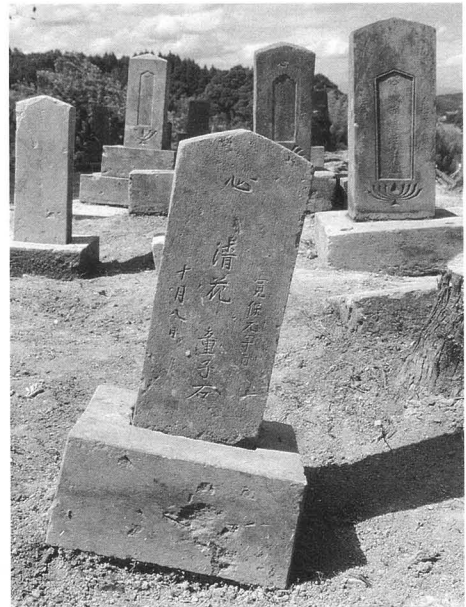
第19図 11号墓石 (1741年)

11号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.60mである。台石は幅0.38m奥行0.36mを測る。墓標の形態はB-1類である。子供の墓である。



第20図 20号墓石 (1741年)



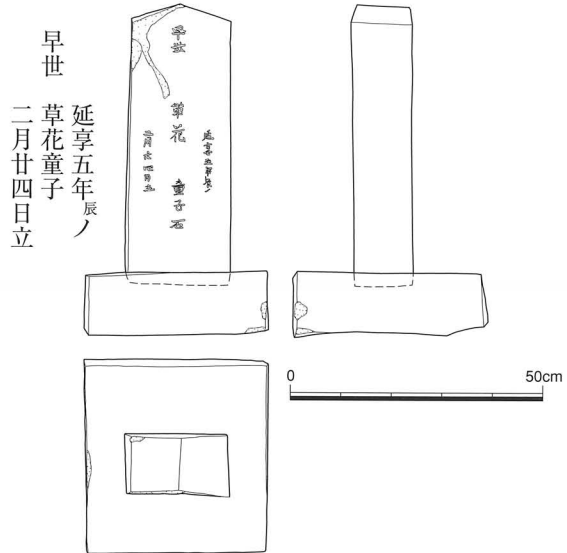
20号墓石

20号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.67mである。台石は幅0.38m奥行0.36mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



28号墓石



第21図 28号墓石 (1748年)

28号墓石

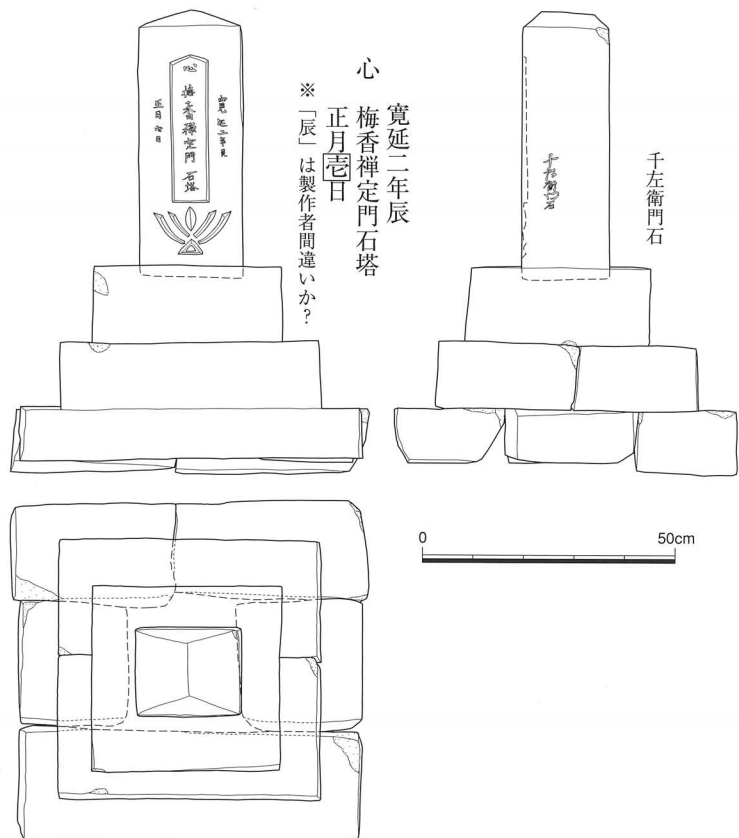
南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.65mである。台石は幅0.31m奥行0.38mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



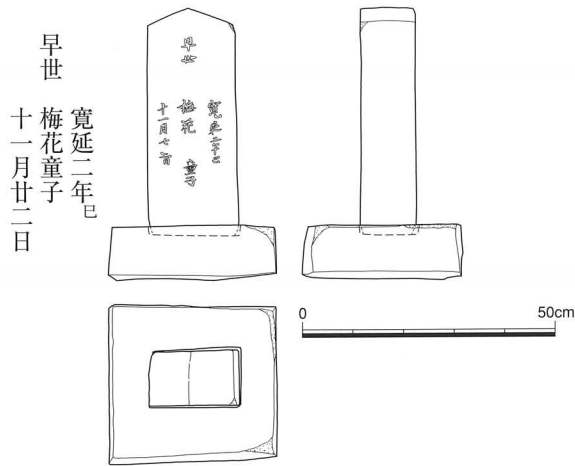
6号墓石

6号墓石

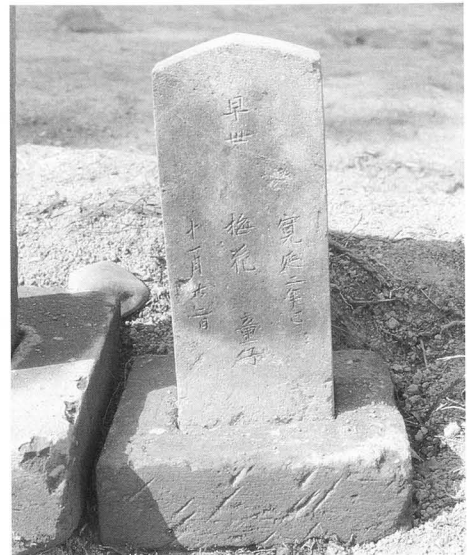
南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.92mである。台石一段目は幅0.38m奥行0.37m、二段目は幅0.52m奥行0.52mで前後2枚の石で構成される。三段目は幅0.71m奥行0.67mを測り、前1枚、左右に各1枚、後2枚の合計5枚の石で構成され、中心は空洞となる。墓標の形態はB-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



第22図 6号墓石 (1749年)



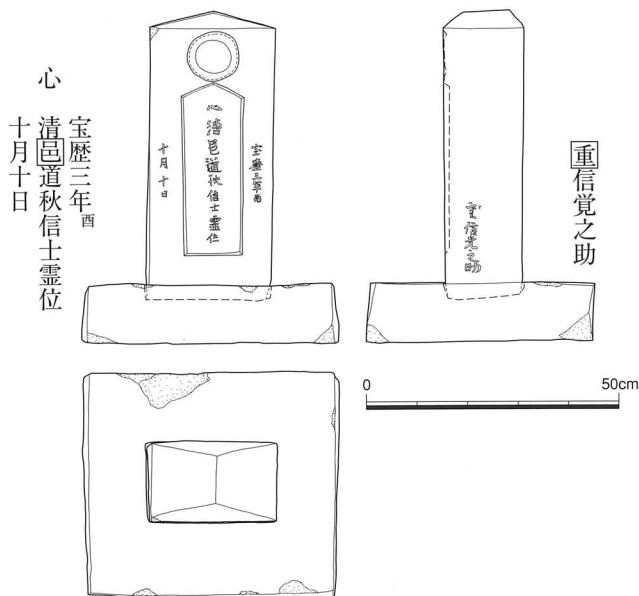
第23図 13号墓石 (1749年)



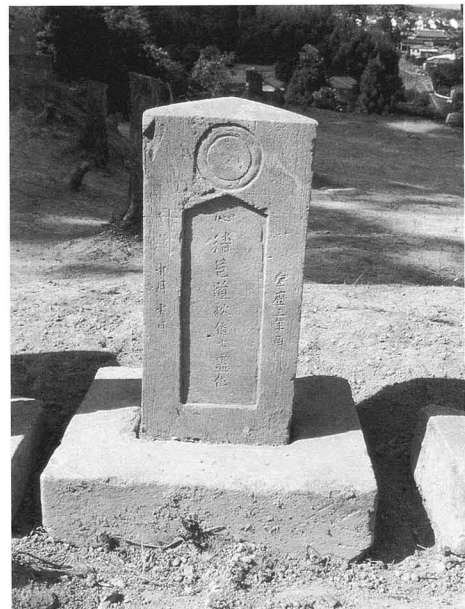
13号墓石

13号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.54mである。台石は幅0.33m奥行0.31mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



第24図 10号墓石 (1753年)



10号墓石

10号墓石

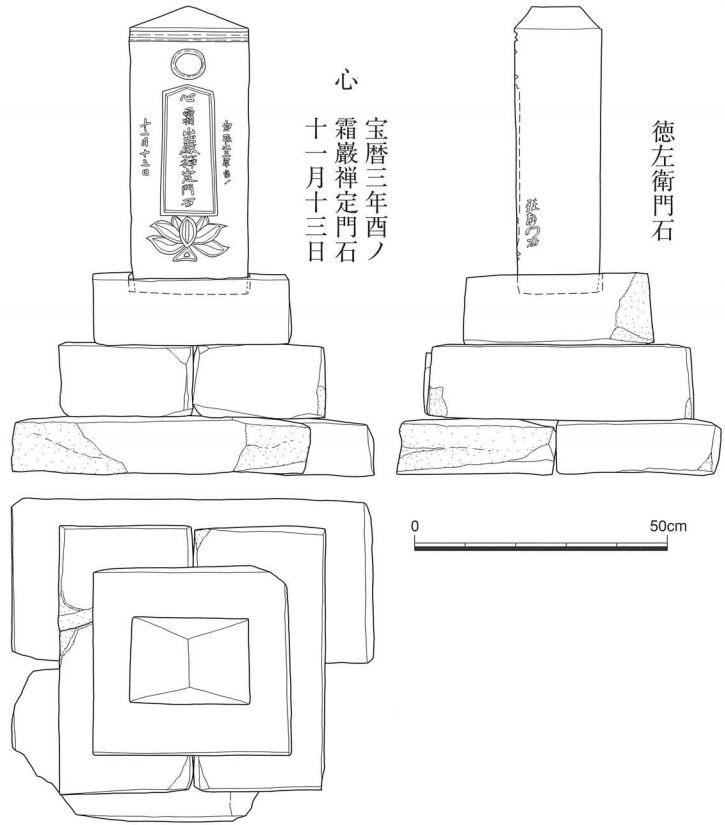
南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.66mである。台石は幅0.51m奥行0.45mを測る。墓標の形態はB-2類である。

26号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.93mである。台石一段目は幅0.39m奥行0.37m、二段目は幅0.53m奥行0.53mを測り、左右2枚の石で構成される。三段目は幅0.71m奥行0.62mを測り、前後2枚の石で構成される。墓標の形態はB-4類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



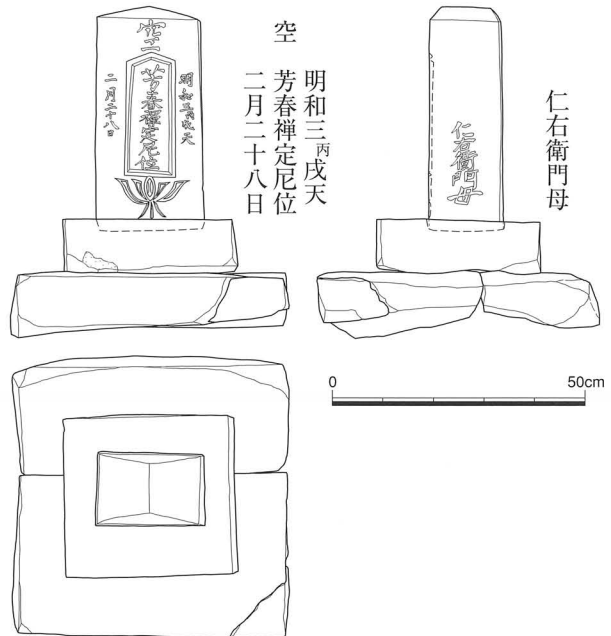
26号墓石



第25図 26号墓石 (1753年)



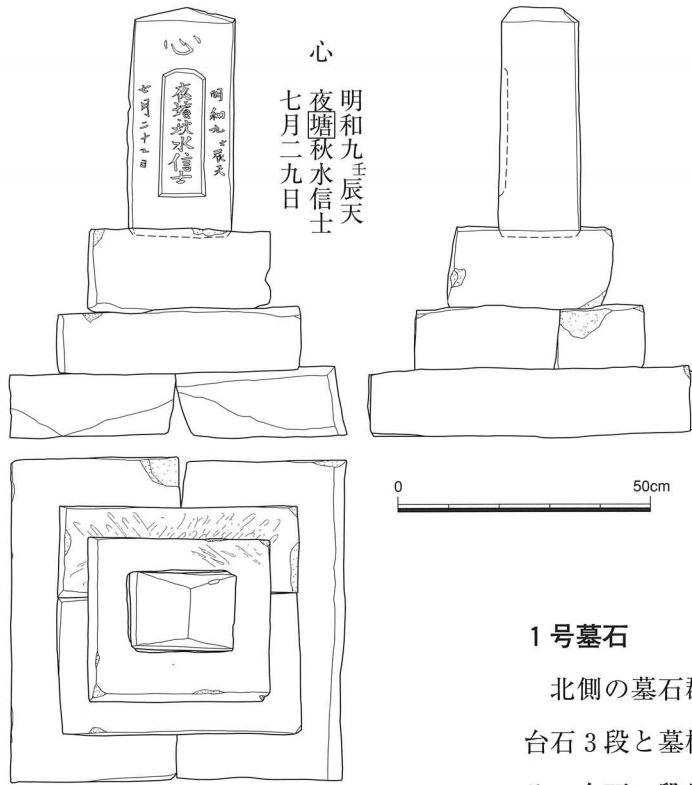
27号墓石



第26図 27号墓石 (1766年)

27号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.66mである。台石一段目幅0.34m奥行0.32m、二段目幅0.55m奥行0.54mを測り前後2枚の石で構成される。墓標の形態はB-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



1号墓石

1号墓石

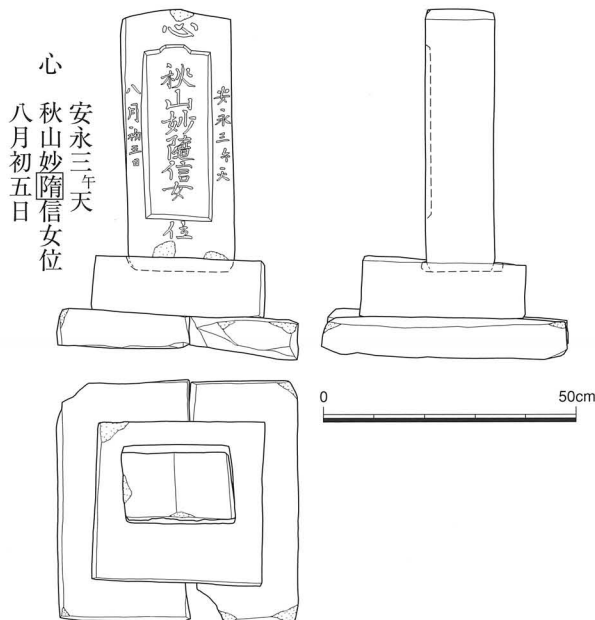
北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.85mである。台石一段目は幅0.34m奥行0.33m、二段目は幅0.48m奥行0.45mを測り、前後2枚の石で構成される。三段目は幅

第27図 1号墓石 (1772年)

0.64m奥行0.64mを測り、左右2枚の石で構成される。墓標の形態はB-2類である。

15号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.69mである。台石一段目は幅0.34m奥行0.32m、二段目は幅0.48m奥行0.49mを測り、左右2枚の石で構成される。墓標の形態はA-2類である。

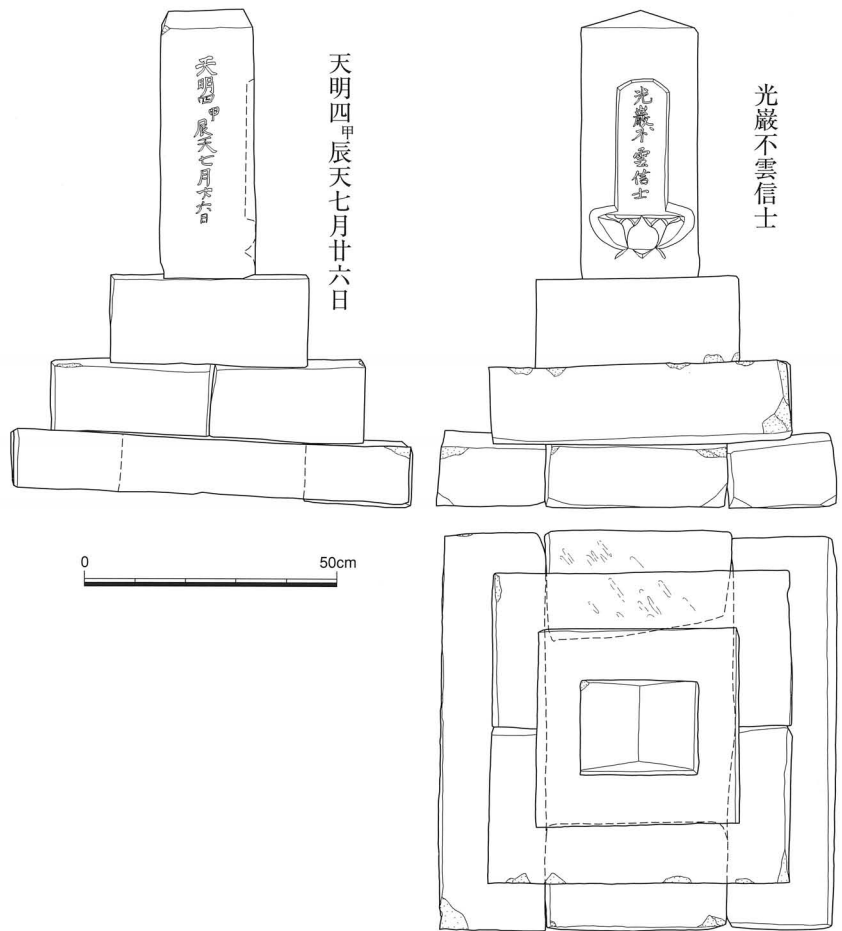


15号墓石

第28図 15号墓石 (1774年)

3号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.98mである。台石一段目は幅0.40m奥行0.39m、二段目は幅0.59m奥行0.62mを測り、前後2枚の石で構成される。三段目は幅0.76m奥行0.79mを測り、前後各1枚、左右各1枚の4枚の石で構成され、中心は空洞である。墓標の形態はB-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



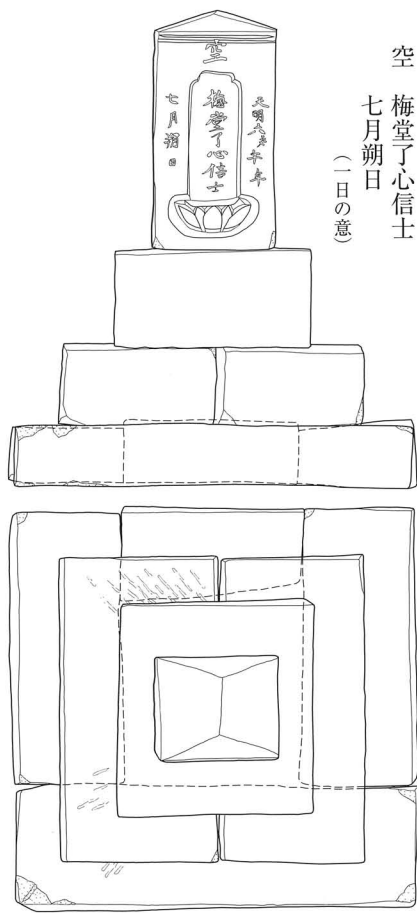
第29図 3号墓石 (1784年)



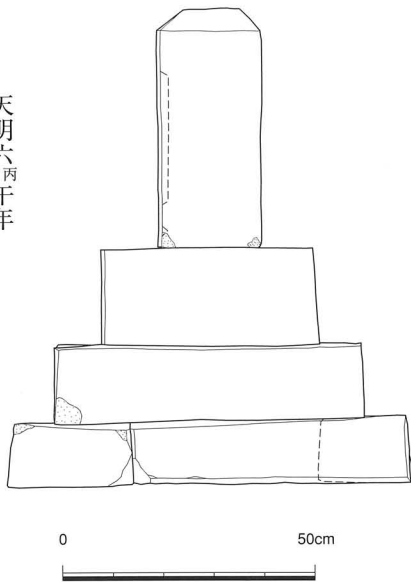
3号墓石



2号墓石



空
天明六丙午年
梅堂了心居士
七月朔日
(一日の意)



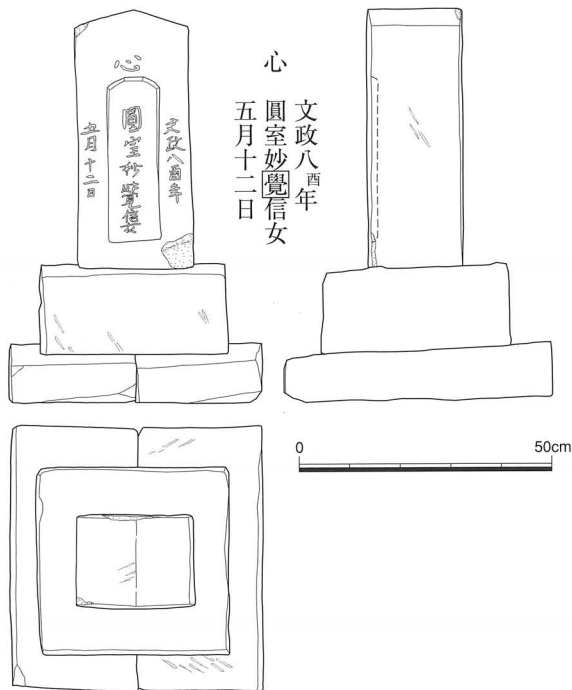
2号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.94mである。台石一段目は幅0.39m奥行0.42m、二段目は幅0.60m奥行0.60mを測り、左右2枚の石で構成される。三段目は幅0.80m奥行0.80mを測り、前後各1枚、左右各1枚の4枚の石で構成され、中心は空洞である。墓標の形態はB-4類である。花燈形の下に蓮華文を有する。

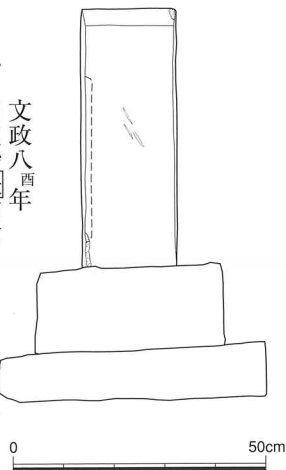
第30図 2号墓石 (1786年)

5号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.78mである。台石一段目は幅0.38m奥行0.38m、二段目は幅0.50m奥行0.53mを測り、左右2枚の石で構成される。墓標の形態はA-2類である。



心
文政八酉年
圓室妙麗信女
五月十二日



第31図 5号墓石 (1825年)

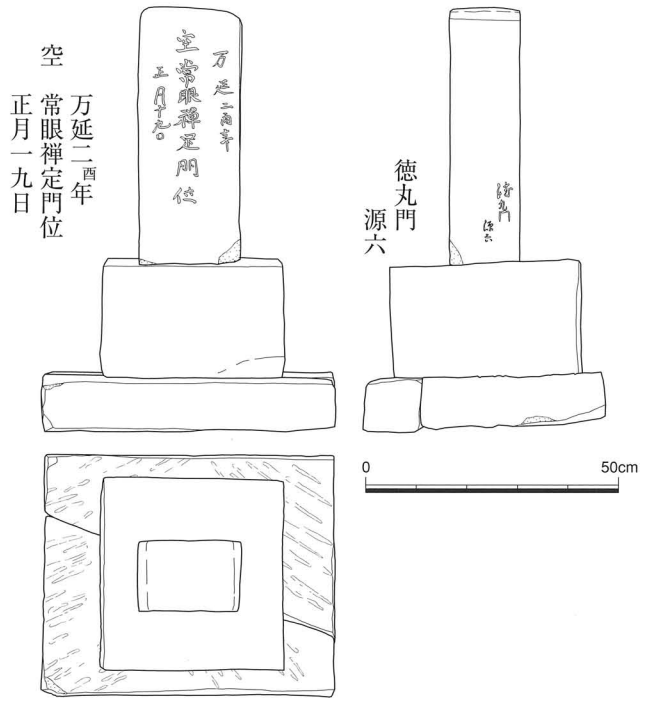
5号墓石



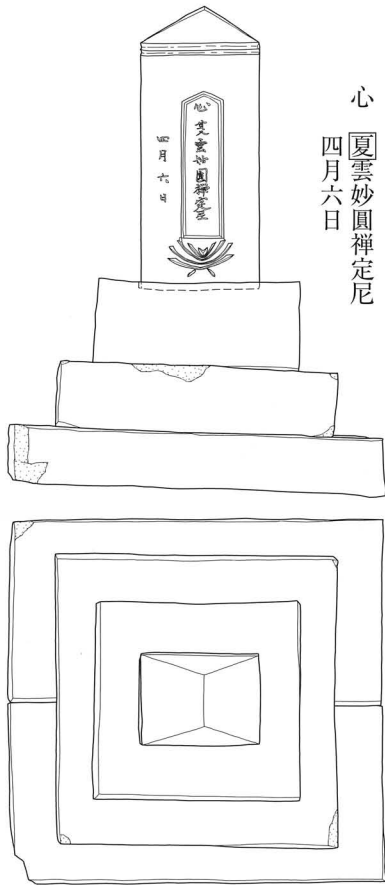
4号墓石

4号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.84mである。台石一段目は高さ0.22m幅0.36m奥行0.38mを測り、厚めの石を利用する。二段目は幅0.58m奥行0.48mを測り、前後2枚の石で構成される。墓標の形態はC-1類である。



第32図 4号墓石 (1861年)



第33図 25号墓石

25号墓石

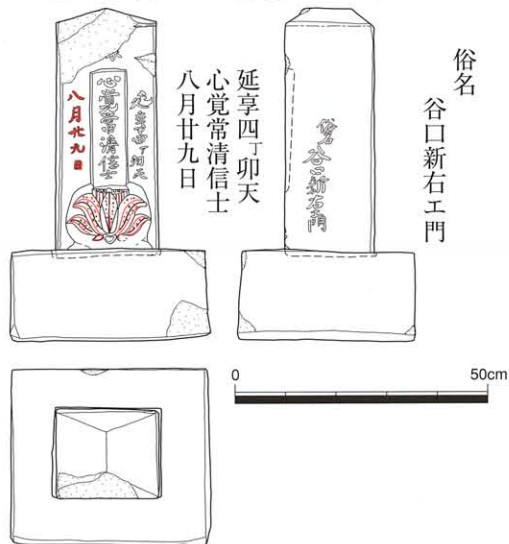
南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.97mである。台石一段目は幅0.40m奥行0.39m、二段目は幅0.56m奥行0.58m、三段目は幅0.74m奥行0.73mを測り、前後2枚の石で構成される。墓標の形態はB-4類である。花燈形の下に蓮華文を有する。没年代が刻字されていない。



25号墓石

2 B区の墓石

B区では1基の墓石のみが確認された。



第34図 32号墓石 (1747年)



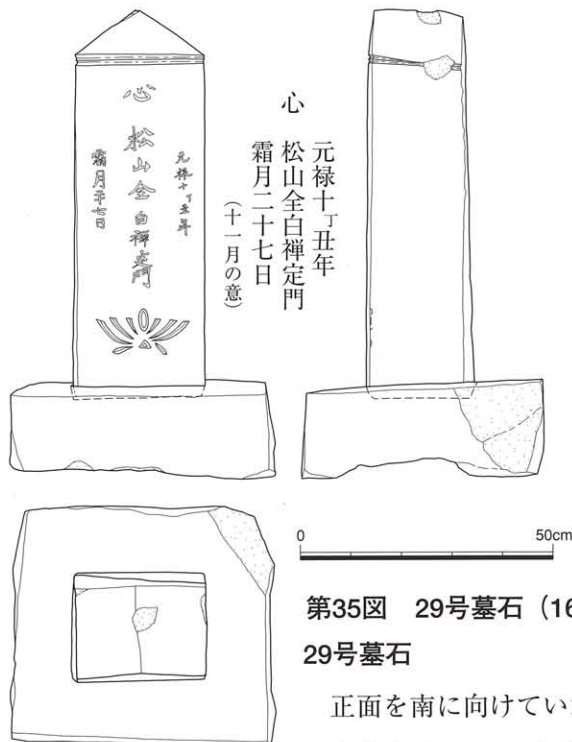
32号墓石

32号墓石

正面を南東に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.66mである。台石は幅0.40m奥行0.34mを測る。墓標の形態はB-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。蓮華文と没月日に朱が施される。

3 C区の墓石

C区は、台石5基は下部遺構である土壙と対応すると考えられる。そのうち3基に墓標が残っていた。



第35図 29号墓石 (1697年)

29号墓石



29号墓石

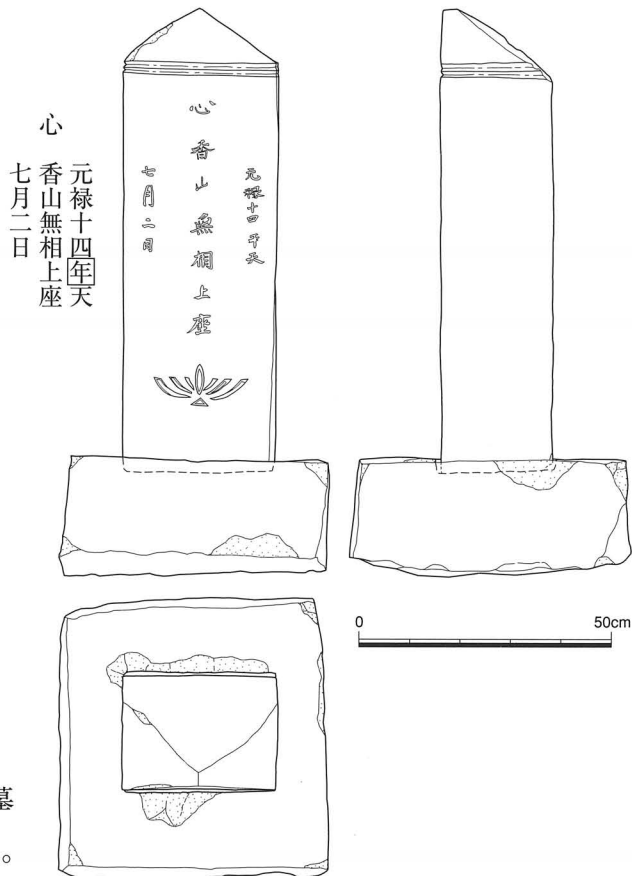
正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.92mである。台石は幅0.52m奥行0.47mを測る。墓標の形態はB-3類である。戒名の下に蓮華文を有する。



30号墓石

30号墓石

正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は1.12mである。台石は幅0.50m奥行0.56mを測る。墓標の形態はA-3類である。戒名の下に蓮華文を有する。



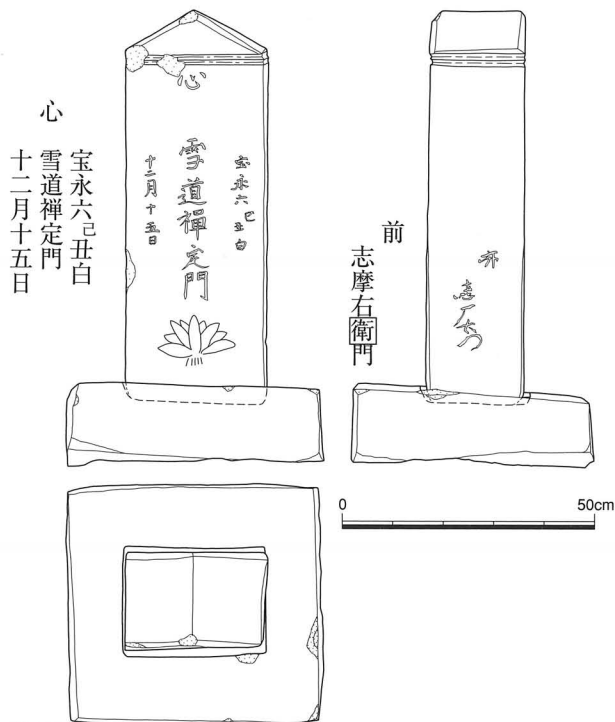
第36図 30号墓石 (1701年)



31号墓石

31号墓石

正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.89mである。台石は幅0.50m奥行0.48mを測る。墓標の形態はA-3類である。戒名の下に蓮華文を有する。



第37図 31号墓石 (1709年)

表1 墓石構成石観察表 (年代順)

西暦	墓石番号	地区名	墓石の構成	台石一段目		台石二段目		台石三段目		備考
				構成石数	寸法	構成石数	外枠寸法	構成石数	外枠寸法	
1696	12号	A区	台石1段	1	高0.13×幅0.41×奥0.48					
1697	29号	C区	台石1段	1	高0.15×幅0.52×奥0.47					
1701	30号	C区	台石1段	1	高0.22×幅0.50×奥0.56					
1705	14号	A区	台石1段	1	高0.14×幅0.41×奥0.42					
1708	8号	A区	台石1段	1	高0.15×幅0.55×奥0.50					
1709	23号	A区	笠付・台石2段	1	高0.29×幅0.53×奥0.53	2	高0.12×幅0.88×奥0.94	笠寸法	高0.30×幅0.58×奥0.57	
1709	31号	C区	台石1段	1	高0.14×幅0.50×奥0.48					
1710	24号	A区	台石2段	1	高0.31×幅0.54×奥0.46	2	高0.15×幅0.71×奥0.85			花挿穴2箇所 (径5cm深4cm)
1714	18号	A区	台石1段	1	高0.18×幅0.57×奥0.59					花挿穴2箇所 (径4cm深4cm)
1714	21号	A区	台石1段	1	高0.14×幅0.50×奥0.45					
1719	19号	A区	台石1段	1	高0.13×幅0.42×奥0.41					
1721	16号	A区	台石1段	1	高0.18×幅0.50×奥0.44					
1722	17号	A区	台石1段	1	高0.14×幅0.39×奥0.38					
1725	7号	A区	台石3段	1	高0.14×幅0.36×奥0.34	1	高0.13×幅0.50×奥0.47	2	高0.10×幅0.64×奥0.61	
1731	22号	A区	台石1段	1	高0.44×幅0.44×奥0.42					
1737	9号	A区	台石1段	1	高0.10×幅0.35×奥0.35					
1741	11号	A区	台石1段	1	高0.13×幅0.38×奥0.36					
1741	20号	A区	台石1段	1	高0.19×幅0.38×奥0.36					
1747	32号	B区	台石1段	1	高0.12×幅0.40×奥0.34					
1748	28号	A区	台石1段	1	高0.12×幅0.31×奥0.38					
1749	13号	A区	台石1段	1	高0.10×幅0.33×奥0.31					
1749	6号	A区	台石3段	1	高0.15×幅0.38×奥0.37	2	高0.15×幅0.52×奥0.52	5,中空	高0.12×幅0.71×奥0.67	
1753	10号	A区	台石1段	1	高0.12×幅0.51×奥0.45					
1753	26号	A区	台石3段	1	高0.13×幅0.39×奥0.37	2	高0.14×幅0.53×奥0.53	2	高0.10×幅0.71×奥0.62	
1766	27号	A区	台石2段	1	高0.10×幅0.34×奥0.32	2	高0.12×幅0.55×奥0.54			
1772	1号	A区	台石3段	1	高0.17×幅0.34×奥0.33	2	高0.12×幅0.48×奥0.45	2	高0.12×幅0.64×奥0.64	
1774	15号	A区	台石2段	1	高0.11×幅0.34×奥0.32	2	高0.08×幅0.48×奥0.49			
1784	3号	A区	台石3段	1	高0.17×幅0.40×奥0.39	2	高0.15×幅0.59×奥0.62	4,中空	高0.11×幅0.76×奥0.79	
1786	2号	A区	台石3段	1	高0.19×幅0.39×奥0.42	2	高0.15×幅0.60×奥0.60	4,中空	高0.12×幅0.80×奥0.80	
1825	5号	A区	台石2段	1	高0.16×幅0.38×奥0.38	2	高0.11×幅0.50×奥0.53			
1861	4号	A区	台石2段	1	高0.22×幅0.36×奥0.38	2	高0.11×幅0.58×奥0.48			
?	25号	A区	台石3段	1	高0.17×幅0.40×奥0.39	1	高0.13×幅0.56×奥0.58	2	高0.11×幅0.74×奥0.73	花挿穴2箇所 (径5cm深3cm)

※23号墓石は笠の寸法を台石3段目欄に記す。

表2 墓標年代別集計表

墓標の型式	A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-2	E-2	形式不明	計
1660年代							1								1
1670年代							1								1
1680年代	2														2
1690年代							2							2	4
1700年代		1	2	1	2								1		7
1710年代	4	2		1										1	8
1720年代	3	2			1	2		1							9
1730年代	2				1	2	1	1							7
1740年代	5		1		3	7		2	1						19
1750年代						3		5		1					9
1760年代	1	2		1		3		2							9
1770年代	1	3		1	1	5									11
1780年代	3	4				2		1							10
1790年代	2	3												1	6
1800年代	1											1			2
1810年代		5													5
1820年代	2	1								1		1			5
1830年代	1	3													4
1840年代		1												1	2
1850年代															0
1860年代									1		1	1			3
年代不明	2	4		3		2	2	3			2	1		4	23
計	29	31	3	7	8	26	7	15	2	2	3	4	1	9	147

?	?	?	?	?	?	?	?	?	西曆
?	?	?	?	?	?	?	?	?	和曆
94号	87号	72号	71号	68号	65号	53号	25号	132号	墓石番号
B区	D区	D区	D区	C区	A区	A区	A区	E区	地区
A 2	D 1	B 2	A 2	B 3	A 2	A 4	B 4	(上部不明 欠損)	墓石形式
							33		図面
高 0.51 幅 0.21 厚 0.17	高 0.51 幅 0.21 厚 0.17	高 0.56 幅 0.21 厚 0.15	高 0.47 幅 0.21 厚 0.18	高 0.55 幅 0.23 厚 0.13	高 0.49 幅 0.21 厚 0.18	高 0.66 幅 0.17 厚 0.15	高 0.56 幅 0.23 厚 0.18	高 (0.51) 幅 0.28 厚 0.15	墓標寸法
蓮華文		蓮華文	蓮華文		蓮華文	蓮華文	蓮華文		正面文様
女性	女性	女性	女性	男性	女性	?	女性	男性	性別
成人	成人	成人	成人	子供	成人	?	成人	成人	年齢
妙輪禪定尼	瀬泉勘左工門妻墓	□和七□ 一陽妙福信女 十月二十日	春花妙貞信女	□煙童子	心 □山自覚信女	⊕ ???	心 四月六日 夏雲妙圓禪定尼	成年 自性禪定門 四月六日 山本源五郎	墓碑(正面)
左側面 生國長崎松五郎 母			右側面 山出門 仁右衛門 母		左側面 十月十七日	右側面 ?			墓碑(側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

年代の特定できない墓標

西暦	和暦	墓石番号	地区	墓石形式	図面	墓標寸法	正面文様	性別	年齢	墓碑(正面)	墓碑(側面)	文字種
1823 1859	文(安?) 政6	37号	A区	D区		高 (0.69) 幅 0.28 厚 0.14	蓮華文	女性	成人	心 法圓妙說禪定尼塔		刻字
?	元祿	158号	E区	(下部欠損)		高 (0.38) 幅 0.26 厚 0.14		?	?	元祿 本源	右側面 山下休五良 ※「良」は「郎」のこと	刻字
1689 1701	元祿?	113号	D区	A-4		高 0.74 幅 0.25 厚 0.14	蓮華文	男性	成人	□ 岩寂鉄居士之塔 五月二日 前押川治右衛門		刻字
1688 1704	元祿?	41号	A区	B-3		高 0.70 幅 0.25 厚 0.12	蓮華文	女性	成人	元祿□未 月山妙白禪定尼塔 七月□八日		刻字
?	貞享?	98号	C区	B-4		高 0.69 幅 0.25 厚 0.14	蓮華文	女性	成人	心 日窓妙夏禪定尼塔 五月七日		刻字
?	寛?	96号	B区	A-2		高 0.52 幅 0.14 厚 0.18	蓮華文	女性	成人	婦 寛 春芳貞心信女 未二月八日		刻字
?	?	106号	D区	B-4		高 0.30 幅 0.14 厚 1.10	電 幻夢童子位	男性	子供	電 幻夢童子位		刻字 赤字
?	?	107号	D区	B-2		高 0.44 幅 0.20 厚 0.20	蓮華文	男性	子供	心 如ノ十二月二十日 幻泡禪童子 押川十助		刻字
?	?	114号	B区	A-1?		高 0.51 幅 0.24 厚 0.19		?	?	□□□年 十一月四日		風化
?	?	116号	E区	A-1		高 0.48 幅 0.19 厚 0.18		?	?	(墨書不明)		墨書
?	?	117号	E区	A-4		高 0.66 幅 0.24 厚 0.13	蓮華文	?	?	(墨書不明)		墨書
?	?	119号	E区	A-1		高 0.28 幅 0.16 厚 0.12		?	?	(墨書不明)		墨書
?	?	120号	E区	D-1		高 0.41 幅 0.18 厚 0.12		?	?	(墨書不明)		墨書
?	?	125号	F区	(上部不明)		高 (0.69) 幅 0.28 厚 0.14	蓮華文	女性	成人	心 法圓妙說禪定尼塔		刻字

1863	1861	1861	1849	1848	1836	1835	1834	1830	1828	1828	1825	西曆
文久3	文久1	万延2	嘉永2	弘化5	天保7	天保6	天保5	文政13	文政11	文政11	文政8	和曆
128号	88号	4号	140号	127号	148号	90号	115号	91号	85号	135号	5号	墓石番号
F区	D区	A区	E区	F区	E区	D区	B区	D区	D区	E区	A区	地区
D2	D1	C1	(上部欠損)	A2	A2	A2	A1	A2	A1	D2	A2	墓石形式
		32									31	図面
高0.44 幅0.21 厚0.16	高0.50 幅0.21 厚0.17	高0.51 幅0.20 厚0.14	高(0.33) 幅0.15 厚0.15	高0.51 幅0.24 厚0.18	高0.49 幅0.23 厚0.18	高0.50 幅0.23 厚0.18	高0.40 幅0.19 厚0.12	高0.50 幅0.22 厚0.19	高0.44 幅0.21 厚0.15	高0.48 幅0.24 厚0.19	高0.52 幅0.23 厚0.18	墓標寸法
蓮華文				蓮華文	蓮華文					蓮華文		正面文様
男性	男性	男性	女性	女性	女性	女性	男性	女性	女性	男性	女性	性別
成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	年齢
空 文久三年 霜山禪定門 十一月二十三日	空 文久元年 瀬泉勘左工門墓 九月九日	空 万延二年 常眼禪定門位 正月十九日	空 嘉永二年 醫月窓妙延大姉 九月十四日	空 弘化五年申 桃月妙參信女 三月十七日	空 天保七年 曾林妙香信女 三月初八日	空 天保六年未天 雪月妙壽信女 十二月十九日	空 天保五年 夏雲禪定門 午五月十二日	心 文政十三年寅天 清顔妙信女 九月十四日	空 本林栄心信女位	空 文政十一年 盛岳玄栄居士位 四月十八日	心 文政八年 圓室妙覺信女 五月十二日	墓碑(正面)
		右側面 德丸門 源六	右側面 田傳藏 (吉か真?) 妻	右側面 川伊便右衛門娘	左側面 山元下人 小吉妻	右側面 めこと		右側面 勘左工門母	右側面 文政十一年 子八日 朔日	右側面 真方傳藏		墓碑(側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

1790	1789	1789	1787	1787	1786	1786	1785	1784	1782	1781	1778	1777	1776	西曆
寛政2	寛政1	寛政1	天明7	天明7	天明6	天明6	?	天明4	天明2	天明1	安永7	安永6	安永5	和曆
44号	143号	123号	75号	137号	2号	152号	105号	3号	138号	57号	150号	144号	34号	墓石番号
A区	E区	E区	D区	E区	A区	E区	A区	A区	E区	A区	E区	E区	A区	地区
	A-1	A-1	A-2	A-2	B-4	A-2	B-2	B-2	A-2	A-1	A-1	A-2	B-1	墓石形式
					30			29						図面
高(0.3)幅0.2厚0.14	高0.50幅0.22厚0.15	高0.50幅0.22厚0.22	高0.47幅0.22厚0.18	高0.33幅0.17厚0.13	高0.47幅0.24厚0.20	高0.35幅0.18厚0.13	高0.50幅0.23厚0.19	高0.53幅0.23厚0.19	高0.36幅0.18厚0.14	高0.52幅0.21厚0.12	高0.51幅0.21厚0.14	高0.48幅0.22厚0.17	高0.49幅0.21厚0.17	墓標寸法
上部人形像				蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文			蓮華文		正面文様
女性	男性	男性	男性	男性	男性	女性	女性	男性	女性	女性?	女性	女性	男性	性別
子供	成人	成人	成人	子供	成人	子供	成人	成人	子供	成人	成人	成人	成人	年齢
処 寛政二年 三月十一日 行年三才 春香童女位	寛政元己酉 九月二日 休心禪定門位	寛政元己酉 六月廿六日 自休禪定門	天明七年 未九月九日 光運了桂信士	眞 天明七丁未年 五月二日 泡影禪童子	空 天明六丙午年 七月朔日 梅堂了心信士 (一日の意)	心 天明六丙午年 正月八日 荅春禪童女	柱峯壽延信女	光巖不雲信士	空 天明二壬寅年 五月十二日 夢幻禪童女	天明改元丑年 九月三日 秋山妙久禪定	長安妙道信女 天明改元丑年 七月廿三日	安永六丁酉天 八月十五日 月丘明圓信女	安永五丙申天 十月念二日 實相傳心信士	墓碑(正面)
		右側面 岩切權助	左側面 千兵衛□			左側面 天明五乙未天三月十四日	左側面 天明四甲辰天七月廿六日		左側面 谷口清右衛門 妻	右側面 岩切源助妻	右側面 山口權兵衛 妻			墓碑(側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	墨書	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

1776	1776	1775	1774	1772	1772	1771	1770	1769	1768	1767	1766	1764	1763	西曆
安永5	安永5	安永4	安永3	明和9	明和9	明和8	明和7	明和6	明和5	明和4	明和3	明和1	宝曆13	和曆
48号	51号	156号	15号	124号	1号	134号	73号	76号	149号	142号	27号	147号	130号	墓石番号
A区	A区	E区	A区	F区	A区	E区	D区	D区	E区	E区	A区	E区	F区	地区
B ₂	A ₂	B ₂	A ₂	A ₄	B ₂	B ₂	B ₂	A ₂	B ₂	B ₂	B ₂	A ₄	A ₁	墓石形式
			28		27						26			図面
高0.52 幅0.22 厚0.18	高0.52 幅0.24 厚0.20	高0.28 幅0.16 厚0.13	高0.52 幅0.21 厚0.13	高0.34 幅0.18 厚0.11	高0.46 幅0.19 厚0.16	高0.51 幅0.23 厚0.19	高0.50 幅0.20 厚0.17	高0.49 幅0.20 厚0.16	高0.47 幅0.22 厚0.20	高0.55 幅0.24 厚0.15	高0.44 幅0.21 厚0.15	高0.54 幅0.24 厚0.14	高0.50 幅0.21 厚0.14	墓標寸法
德利、杯	蓮華文	蓮華文		蓮華文		蓮華文			蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	正面文様
男性	女性	男性	女性	女性	男性	男性	女性	女性	男性	男性	女性	女性	女性	性別
成人	成人	子供	成人	子供	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	年齢
点 大峯自道信土 十月十七日	刃 安永五丙申天 八月初十日	心 安永四乙未天 十月三日	心 安永三午天 八月初五日		心 明和九壬辰天 七月二十九日	空 明和八辛卯天 十二月二十四日	空 離庭禪定尼位 四月二十五日	点 妙空禪定尼位 五月二十七日	空 明和六巳丑年 六月初六日		空 明和四丁亥天 二月初八日	心 明和元甲申稔 十二月初一日逝	空 宝曆十三癸未 八月初四日	墓碑(正面)
左側面 俗名 新助塔	右側面 前衛門 九郎右衛門 姉	右側面 山本岳藤太				左側面 俗名 山本彦左右門塔			右側面 山口權兵衛門	右側面 山本源太左衛門尉 高富	右側面 仁右衛門母	右側面 山本興左衛門之 室	右側面 北ノ邊門休三母	墓碑(側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

1761	1761	1760	1758	1757	1753	1753	1752	1751	1751	1751	1751	1749	1749	西曆	
宝曆11	宝曆11	宝曆10	宝曆8	宝曆7	宝曆3	宝曆3	宝曆2	寛延4	寛延4	寛延4	寛延4	寛延2	寛延2	和曆	
86号	77号	74号	79号	139号	26号	10号	109号	92号	84号	78号	104号	83号	155号	墓石番号	
D区	D区	D区	D区	E区	A区	A区	D区	D区	D区	D区	A区	D区	E区	地区	
A ₂	B ₄	B ₄	C ₂	B ₂	B ₄	B ₂	B ₂	B ₄	B ₄	B ₄	B ₄	A ₁	B ₂	墓石形式	
					25	24								図面	
高0.49 幅0.21 厚0.15	高0.50 幅0.22 厚0.15	高0.49 幅0.22 厚0.17	高0.67 幅0.26 厚0.25	高0.38 幅0.19 厚0.14	高0.57 幅0.23 厚0.16	高0.57 幅0.25 厚0.16	高0.54 幅0.22 厚0.17	高0.49 幅0.23 厚0.20	高0.48 幅0.21 厚0.17	高0.51 幅0.21 厚0.17	高0.51 幅0.20 厚0.16	高0.43 幅0.20 厚0.12	高0.32 幅0.17 厚0.13	墓標寸法	
	蓮華文	蓮華文	蓮華文		蓮華文		蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	正面文様	
男性	女性	女性	男性	女性	男性	男性	男性	男性	女性	女性	女性	女性	男性	性別	
成人	成人	成人	成人	子供	成人	成人	成人	成人	成人	成人	成人	子供	子供	年齢	
点 夏山涼風信士位 六月三十日	心 宝曆十一年辛巳天 大超雪道信女 十有二月廿一日	心 宝曆十庚辰天 緑室禪随信女位 八月三日死去	空 宝曆八庚寅天 香嶽薰風信士 一月二十三日卒		心 宝曆七丁丑年 如夢禪童女靈 十一月廿六日	心 宝曆三年酉 清邑道秋信士靈位 十月十日		心 寶曆二戊申年 天保慈然居士 五月廿八日	心 寛延四年十一月六日 霜禪定門石	空 寛延四年五月十九日 柳菴禪定尼石	空 寛延四年未 妙禪定尼石 五月十二日	空 寛延四年 草華禪定尼石 三月廿日	早 寛延二年巳 夢童女 十二月五日	心 寛延二年巳天 雪菴童子 十二月三日	墓碑(正面)
左右側面 大西門勘左右衛吏	右側面 出山門ノ作右工門塔	右側面 出山門 筑右工門 母	左側面 大西門 筑右衛門墓		右側面 德左衛門石	右側面 重信覺之助	右側面 押川治右衛門 則辰						左側面 山本源太左工門 二男子	墓碑(側面)	
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

1749	1749	1749	1748	1748	1748	1748	1748	1747	1744	1744	1743	1741	1741	西曆
寛延2	寛延2	寛延2	寛延1	寛延1	寛延1	寛延1	延享5	延享4	延享1	延享1	寛保3?	寛保1	寛保1	和曆
13号	145号	6号	102号	52号	108号	62号	28号	32号	146号	141号	81号	42号	11号	墓石番号
A区	E区	A区	A区	A区	D区	B区	A区	B区	E区	E区	D区	A区	A区	地区
A 1	B 2	B 2	A 1	B 1	B 2	B 4	A 1	B 2	B 2	C 1	B 2	B 1	B 1	墓石形式
23		22					21	34					19	図面
高0.45 幅0.18 厚0.11	高0.51 幅0.24 厚0.20	高0.53 幅0.20 厚0.17	高0.41 幅0.20 厚0.14	高0.55 幅0.20 厚0.17	高0.49 幅0.22 厚0.19	高0.46 幅0.21 厚0.13	高0.56 幅0.20 厚0.12	高0.49 幅0.20 厚0.18	高0.50 幅0.22 厚0.20	高0.45 幅0.17 厚0.19	高0.45 幅0.17 厚0.13	高0.47 幅0.19 厚0.12	高0.49 幅0.18 厚0.12	墓標寸法
	蓮華文	蓮華文			蓮華文	蓮華文		蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文			正面文様
男性	男性	男性	女性	男性	女性	男性	男性	男性	男性	男性	男性	女性	男性	性別
子供	成人	成人	子供	成人	成人	成人	子供	成人	成人	成人	子供	子供	子供	年齢
早世 梅花童子 十一月廿二日	寛延二年巳 廓遍長然信士 正月十九日	心 寛延二年辰 梅香禪定門石塔 正月廿九日 ※辰は制作者間違いか?	心 寛延元年辰 妙花童女石 十二月十日立	心 寛延元年辰 梅岩禪定門石塔 十二月朔日立	梅稍妙花信女 辰十一月廿四日	心 寛延元年辰 玄清禪定門石 閏十月十一日	早世 草花童子 二月廿四日立	延享五年辰ノ 八月廿九日	心 延享四年卯天 心覚常清信士 九月十二日	延享元年甲子年 九月九日	心 寛保三年 草花童子 亥七月十八日	心 寛保元年酉 妙雅童女石 四月十九日	心 寛保元年酉 妙雅童子石 四月十九日	墓碑(正面)
	右側面 岩切鉄右工門塔	右側面 千左衛門石	右側面 □右衛門娘	右側面 彦市石	右側面 押川治右衛門 妻	右側面 仲右衛門		右側面 俗名 谷口新右工門	右側面 山本興左衛門	右側面 山口藤太左衛門	右側面 筑右衛門子			墓碑(側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	赤字 刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

1741	1741	1740	1739 ?	1737 ?	1737	1737	1736	1735	1731	1729	1725	1725	1724	西曆
寛保1	寛保1	元文5	元文4? ?	元文2? ?	元文2? ?	元文2	享保21	享保20	享保16	享保14	享保10	享保10	享保9	和曆
82号	20号	38号	69号	50号	40号	9号	80号	112号	22号	49号	7号	55号	67号	墓石番号
D区	A区	A区	D区	A区	A区	A区	D区	D区	A区	A区	A区	A区	A区	地区
A 3	A 1	B 4	B 2	A 1	A 1	B 1	B 4	B 2	B 3	B 2	A 2	A 1	B 1	墓石形式
	20					18			17		16			図面
高 0.44 幅 0.17 厚 0.09	高 0.52 幅 0.21 厚 0.11	高 0.47 幅 0.22 厚 0.20	高 0.46 幅 0.23 厚 0.19	高 0.43 幅 0.18 厚 0.09	高 0.37 幅 0.17 厚 0.11	高 0.39 幅 0.16 厚 0.10	高 0.54 幅 0.21 厚 0.19	高 0.55 幅 0.23 厚 0.20	高 0.59 幅 0.22 厚 0.21	高 0.62 幅 0.27 厚 0.20	高 0.50 幅 0.23 厚 0.16	高 0.49 幅 0.23 厚 0.15	高 0.73 幅 0.31 厚 0.29	墓標寸法
		蓮華文	蓮華文				蓮華文	蓮華文		蓮華文	蓮華文		蓮華文	正面文様
男性	男性	女性	男性	?	?	男性	男性	男性	男性	女性	女性	女性	男性	性別
子供	子供	成人	成人	?	子供	子供	成人	成人	成人	成人	成人	子供	成人	年齢
心 寛保元年西 四月二日立	心 寛保元年西 清花童子石 十月八日	心 元文五年申 妙雪禪定尼石 十二月十四日	心 元文四年未ノ 夏雲禪定門石 六月九日立	元空 元文二年 □□? □□? 元文二年□?	心 元文二年巳 妙花童子石 三月十一日	心 元文二年巳 妙花童子石 三月十一日	心 享保二十一年辰 善草禪定門石 三月三日立	心 享保廿年乙卯 壽山金長居士 七月十日	圓 享保十六年亥 雪岩禪定門石塔 十二月廿六日	空 享保十四年酉 落葉妙清信女石塔 九月中一日	圓 享保十年巳 妙秋禪定尼之信 七月廿五日	心 享保十年巳 妙心童女 六月十六日	心 享保九年辰 好山清玉信士石塔 十月十日	墓碑(正面)
	右側面 善六子石		右側面 山出門 彦右衛門				右側面 前伊左衛門			左側面 重信覺之助 母			右側面 押川才左衛門	墓碑(側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	墨書	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

1722	1722	1721	1721	1720	1719	1719	1719	1718	1714	1714	1711	1710	1709	西曆
享保7	享保7	享保6	享保6	享保5	享保4	享保4	享保4	享保3	正徳4	正徳4	宝永8	宝永7	宝永6	和曆
47号	17号	16号	151号	58号	59号	56号	19号	136号	18号	21号	46号	24号	31号	墓石番号
A区	A区	A区	E区	A区	A区	A区	A区	E区	A区	A区	A区	A区	C区	地区
B ₂	A ₁	A ₂	B ₄	A ₁	A ₁	A ₄	A ₁	(上部欠損) 不明	(下部柄有) A ₂	(下部突起有) A ₁	A ₁	A ₂	A ₃	墓石形式
	15	14					13		12	11		10	37	図面
高0.54 幅0.21 厚0.16	高0.51 幅0.22 厚0.18	高0.64 幅0.26 厚0.21	高0.60 幅0.28 厚0.21	高0.55 幅0.22 厚0.16	高0.68 幅0.24 厚0.19	高0.64 幅0.25 厚0.14	高0.55 幅0.25 厚0.19	高(0.42) 幅0.22 厚0.21	高0.74 幅0.30 厚0.20	高0.55 幅0.23 厚0.16	高0.74 幅0.30 厚0.24	高0.68 幅0.27 厚0.25	高0.78 幅0.23 厚0.19	墓標寸法
蓮華文		蓮華文	蓮華文	蓮華文		蓮華文			蓮華文			蓮華文	蓮華文	正面文様
男性	男性	女性	男性	女性	女性?	男性	男性	女性	女性	男性	女性	女性	男性	性別
成人	子供	成人	成人	成人	成人	子供	子供	成人	成人	子供	成人	成人	成人	年齢
心 享保七年(寅) 清秋禪定門石塔 九月十三日	早世 享保七年(寅) 清心童子石塔 七月廿九日	心 享保六年(丑) 華清妙春禪定尼石塔 二月十八日	心 享保六年(丑) 夏日道丹禪定門石 五月十八日	心 享保五年(子) 清月妙安禪定尼石 八月七日	圓 享保四年(亥) 宗心道久禪定門石塔 正月八日	心 享保四年(亥) 清心童子石 十月十五日	早世 享保四年(亥) 現心童子石塔 十月十一日	享保三年 雪雲妙霜信女 三月十八日	心 正徳四年(甲午) 春華妙心禪定尼塔 三月廿二日	心 正徳四年(甲午) 幻華童子 三月十二日	心 宝永八年 梅室妙圓禪定尼之塔 卯正月三十日	⊕ 宝永七年(寅) 香山妙薰大姉 六月九日	心 宝永六年(丑) 雪道禪定門 十二月十五日	墓碑(正面)
右側面 六左衛門		右側面 六衛門女坊石	右側面 前孝左衛門石塔	左側面 高岡町 傳右衛門母	右側面 妻	左側面 毘之助男子			右側面 安左衛門母石	右側面 久衛門子石		左側面 右衛門 妻	右側面 前 志摩右衛門	墓碑(側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	墨書	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

表3 墓標觀察表

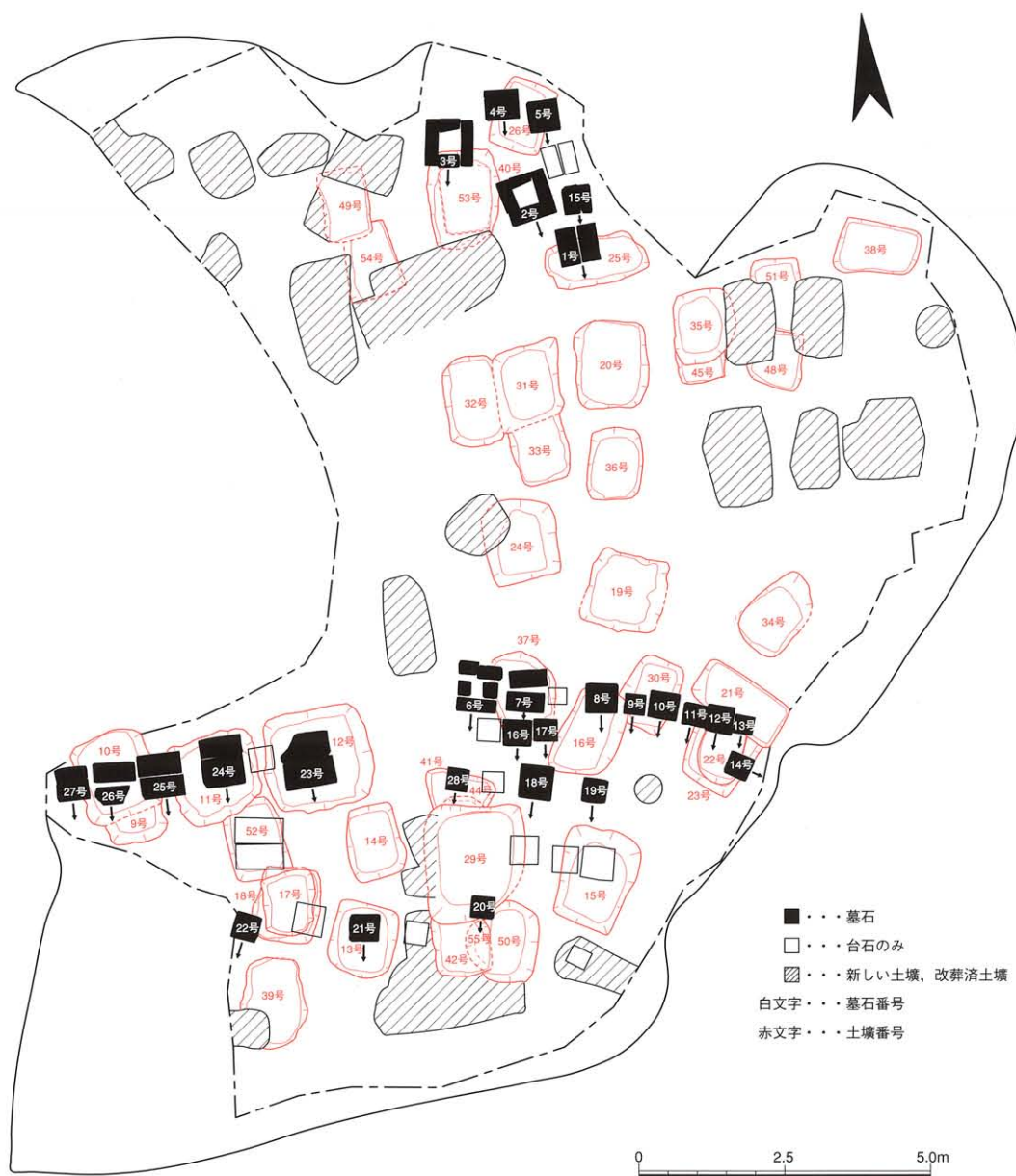
1709	1708	1708	1706	1705	1701	1699	1697	1696	1692	1688	1685	1671	1668	西曆 和曆
宝永6	宝永5	宝永5	宝永3	宝永2	元禄14	元禄12	元禄10	元禄9	元禄5	貞享5	貞享2	寛文11	寛文8	墓石番号
23号	8号	111号	66号	14号	30号	33号	29号	12号	95号	131号	133号	129号	126号	地区
A区	A区	D区	A区	A区	C区	A区	C区	A区	北八反田 斜面	F区	E区	F区	F区	墓石形式
E ₁ 2	A ₁ 2	B ₁ 1	A ₁ 4	B ₁ 1	A ₁ 3	(上部不明 欠損)	B ₁ 3	(下部突起有 B ₁ 3)	A ₁ ?	A ₁ 1	A ₁ 1	B ₁ 3	B ₁ 3	図面
9	8			7	36		35	6						墓標寸法
高0.75 幅0.28 厚0.27	高0.69 幅0.24 厚0.23	高0.58 幅0.28 厚0.20	高0.69 幅0.28 厚0.21	高0.48 幅0.22 厚0.11	高0.92 幅0.30 厚0.22	高(0.50) 幅0.24 厚0.15	高0.77 幅0.26 厚0.21	高0.67 幅0.24 厚0.13	高0.37 幅0.28 厚0.18	高0.63 幅0.21 厚0.14	高0.58 幅0.23 厚0.16	高0.62 幅0.30 厚0.18	高0.68 幅0.30 厚0.19	正面文様
蓮華文	蓮華文		蓮華文		蓮華文		蓮華文	蓮華文				蓮華文	蓮華文	性別
男性	男性	女性	女性	男性	男性	男性	男性	男性	?	男性	女性	女性	男性	年齢
成人	成人	成人	子供	子供	成人	成人	成人	成人	?	成人	成人	成人	成人	墓碑(正面)
宝永六年丑 家榮壽仙居士 六月十六日	宝永五年庚子天 月江昌圓禪定門 七月二十三日	心 宝永五年戊 智應妙察信女石塔 子十月七日	宝永三年丙 梅惠童女之塚 戌正月七日	心 宝永二年乙酉天 香榮童子 四月十九日	心 元禄十四年天 香山無相上座 七月二日	元禄十二年己 花輪春日禪定門 卯正月二十七日	心 元禄十一年 松山全白禪定門 霜月二十七日 (十一月の意)	鷓 元禄九子 本源自性禪定門塔 三月十五日	刃 元禄五子 秋元 七月	一 貞享五辰 夏庵涼天禪定門 七月十七日	心 貞享二乙丑 妙閑禪定尼 十二月十二日	寛文十一年亥 妙閑禪定尼之塔 七月廿二日 金右衛門母	州 寛文八戊申 栄口益上座之塔 九月五日	墓碑(側面)
右側面 前七衛門	右側面 前傳左衛門	右側面 押川治衛門妻				左側面 重信大左衛門								墓碑(側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種

第3節 土壌の調査

八反田・川子地区墓地群で検出された土壌は、55基である。地区別に見ると、A区42基、B区3基、C区5基、D区2基、E区3基である。

1 A区の土壌

標高約40mに位置し、墓域の中で、最も広い面積を有する地区である。表土を除去すると、岩盤や岩盤がブロック状に混じった土壌が現れ、土壌はそこから検出された。A区南側は造成土のような黒色土が堆積している。墓地造成時に平坦にしたものか。土壌は、42基が検出されたが、墓石との対応が確認できる土壌はない。



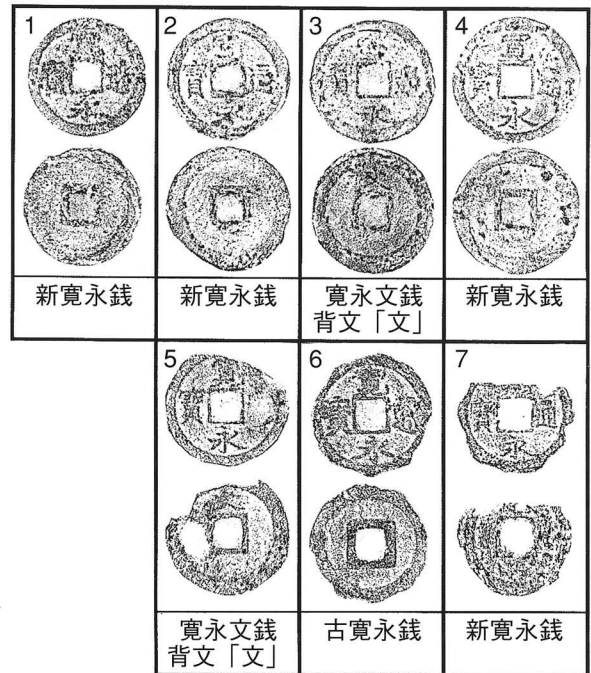
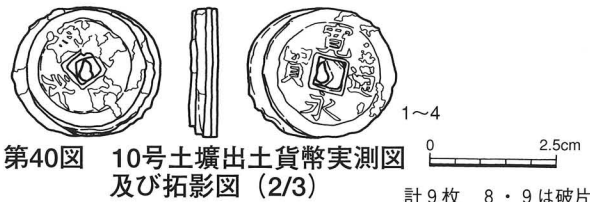
第38図 A区墓石・土壌配置図

9・10号土壙

A区西端で検出された。9号土壙が10号土壙に切られる。

9号土壙の形状は、北側が残っていないが、隅丸長方形の可能性が高い。残深は0.61m。N-9° -Wを主軸とする。人骨が床上10cmの高さで出土している。副葬品の出土はない。

10号土壙は、長軸約1.5m短軸1.39mの隅丸長方形で、土壙の残深は1.04mを測る。N-21° -Wを主軸とする。人骨は、床面5cmの高さで出土。遺物は貨幣が9枚出土。1～6は床直上からセットで出土し副葬品と思われる。すべて寛永通寶である。7～9は約20cm上面から出土し、破片であるため、混入と考えられる。このほか、鉄釘が出土している。



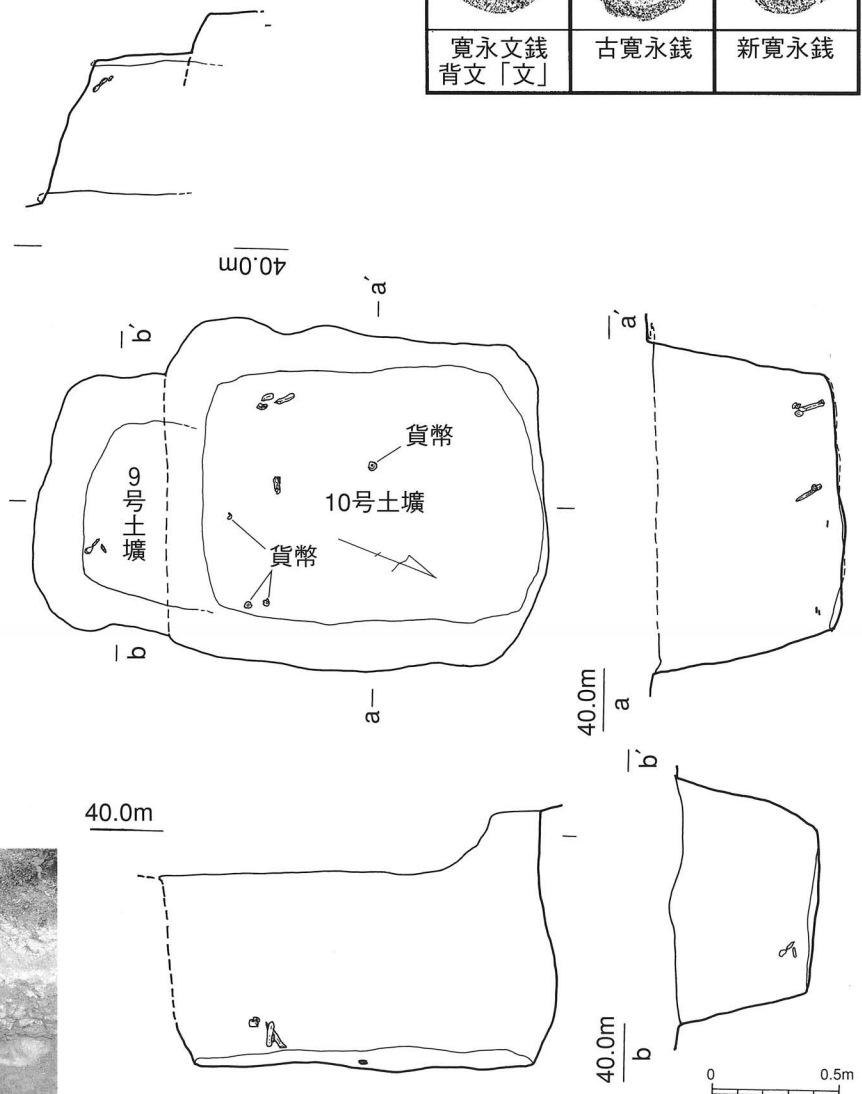
9号土壙



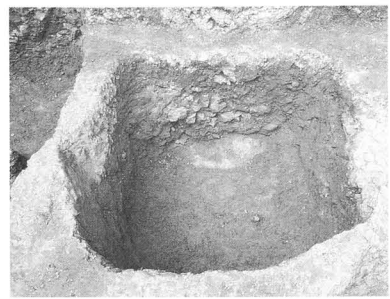
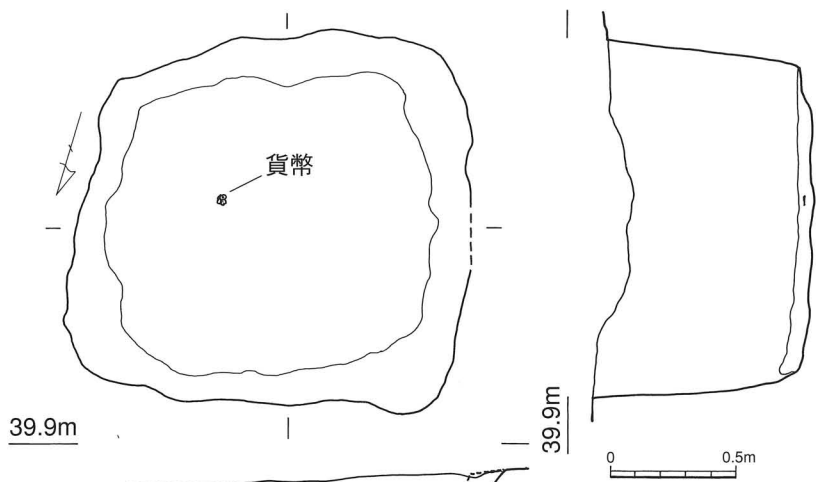
9・10号土壙



10号土壙

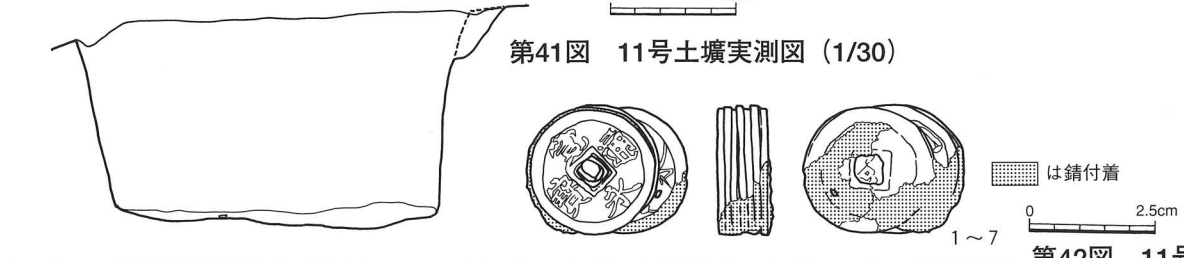


第39図 9・10号土壙実測図 (1/30)



11号土壙

第41図 11号土壙実測図 (1/30)



1	2	3	4	5	6	7
古寛永銭	新寛永銭	寛永通寶 詳細不明	新寛永銭	古寛永銭	寛永通寶 詳細不明	寛永通寶 詳細不明

第42図 11号土壙出土貨幣実測図及び拓影図 (2/3) 計7枚

11号土壙

10号土壙の東隣で検出され、南側の52号土壙を切る。土壙の形状は、長軸1.6m短軸1.5mの隅丸方形で、残深は0.88mを測る。N-70° -Eを主軸とする。人骨は出土していない。遺物は、床直上で貨幣7枚がセットで出土した。すべて寛永通寶である。

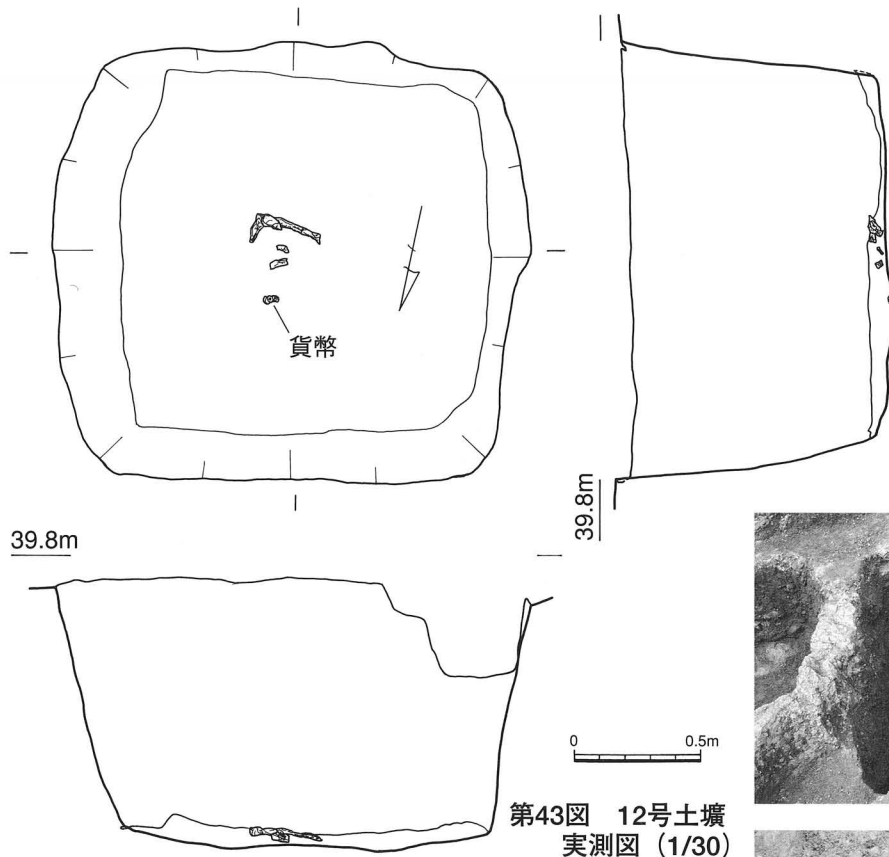
12号土壙

11号土壙の東隣で検出された。土壙の形状は、長軸1.88m短軸1.75mの隅丸方形で、残深1.11mを測る。



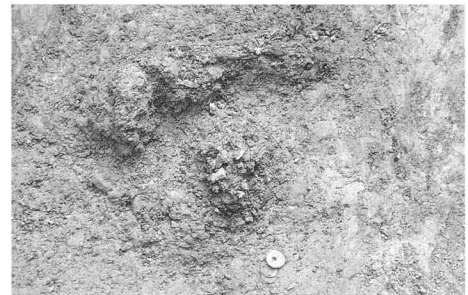
第44図 12号土壙出土貨幣実測図及び拓影図 (2/3)

1	2	3	4	5	6	7
寛永文銭 背文「文」?	古寛永銭	古寛永銭	寛永文銭 背文「文」	新寛永銭	新寛永銭	新寛永銭 背文「？」



第43図 12号土壌
実測図 (1/30)

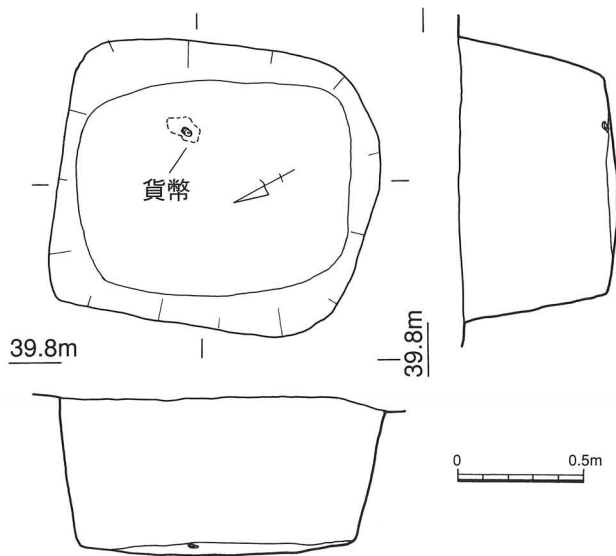
N-78° -Eを主軸とする。土壌の中央、床面直上で人骨が出土した。遺物は、人骨の北側で貨幣が7枚セットで出土した。すべて寛永通寶である。貨幣の下部で木片が出土した。



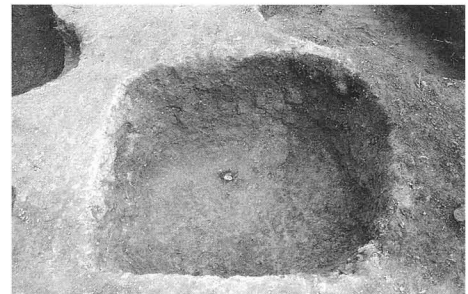
12号土壌

13号土壌

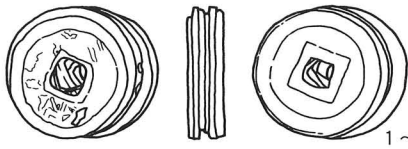
A区の南寄りで検出された。土壌の形状は、長軸1.32m短軸1.18mの隅丸長方形で、残深は0.63mを測る。N-28° -Eを主軸とする。床面から貨幣が7枚セットで出土した。1は開元通寶、2～7は寛永通寶である。また、貨幣の周り、黒色の炭化物様のものが出土している。人骨かどうかは、不明である。(第IV章第1節参照)



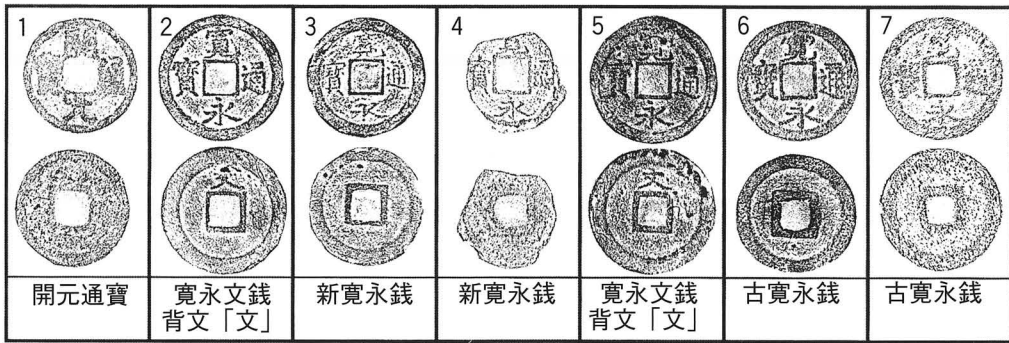
第45図 13号土壌実測図 (1/30)



13号土壌

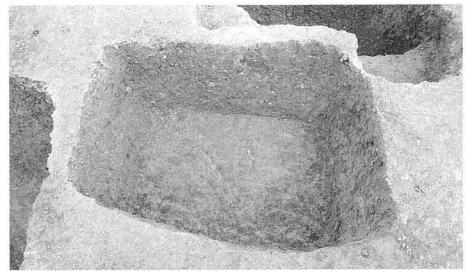


第46図 13号土壙出土貨幣実測図
及び拓影図 (2/3) 計7枚

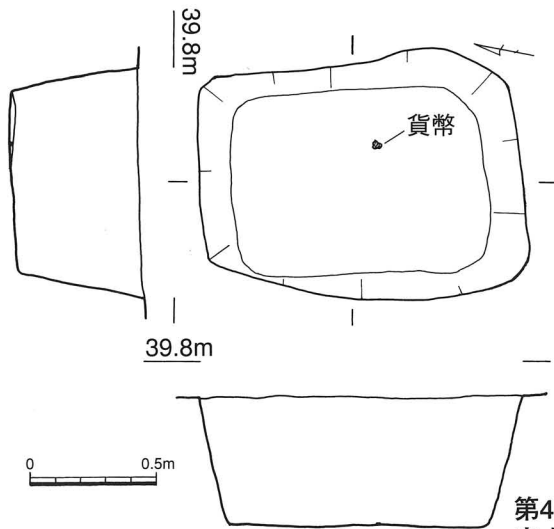


14号土壙

12号土壙と13号土壙の間で検出された。土壙の形状は、長軸1.29m短軸0.99mの隅丸長方形で、残深は0.53mを測る。N-10.5° -Wを主軸とする。人骨の出土はなく、床面直上で貨幣3枚が出土した。すべて寛永通寶である。

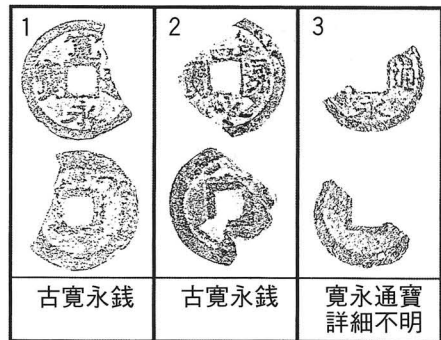


14号土壙



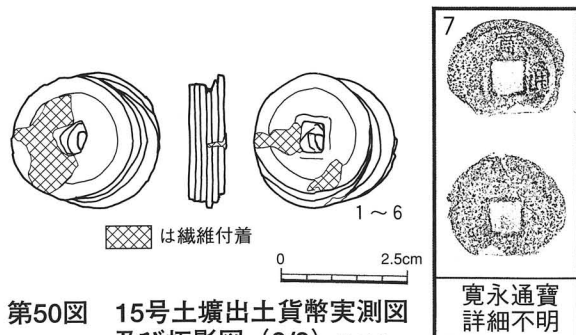
第47図 14号土壙実測図 (1/30)

第48図 14号土壙
出土貨幣拓影図
(2/3) 計3枚



15号土壙

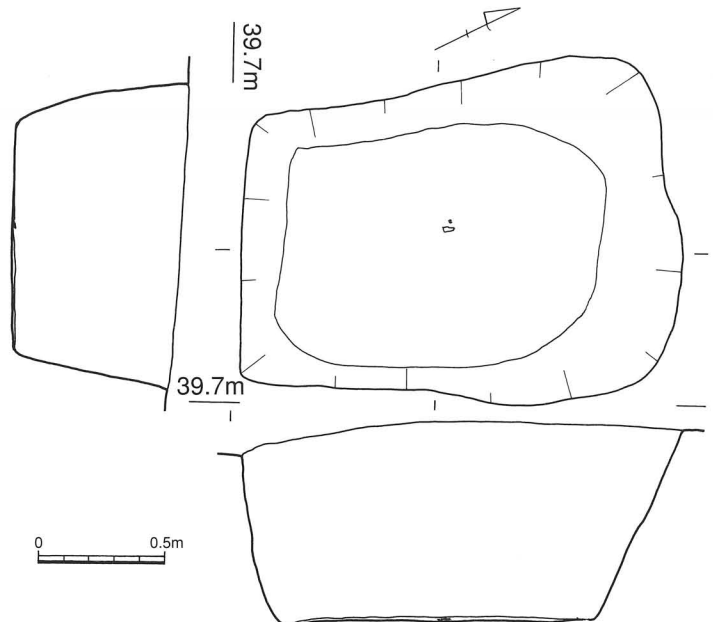
A区南東で検出された。土壙は、長軸1.72m短軸1.37mの隅丸長方形で、残深は0.8mを測る。主軸はN-26.5° -E方向。土壙の中央、床面直上で人骨と貨幣が出土した。7枚セットで、1枚は剥落したが、残りの6枚は繊維が付着していたため、密着した状態で保存処理を施した。



第50図 15号土壙出土貨幣実測図
及び拓影図 (2/3) 計7枚



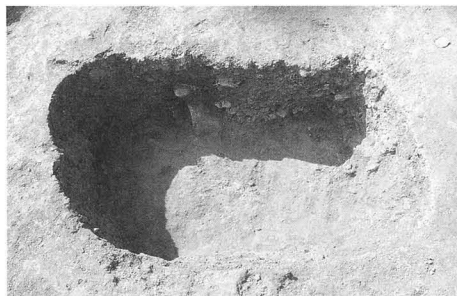
15号土壙



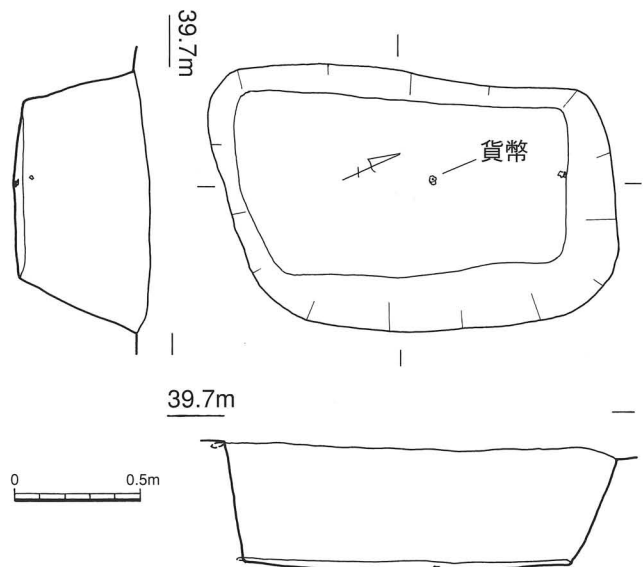
第49図 15号土壙実測図 (1/30)

16号土壙

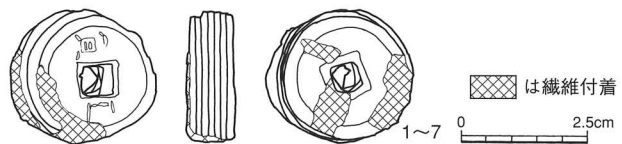
15号土壙の北側で検出された。東隣に位置する。30号土壙を切る。土壙の形状は、長軸1.59m短軸1.07mの隅丸長方形で、残深は0.53mを測る。土壙の主軸は、N-24° -Eである。土壙北端、床面3cmのところ、人骨が発見され、土壙中央、床面直上で7枚セットの貨幣が出土。繊維が付着していたため、密着した状態で、保存処理を施した。



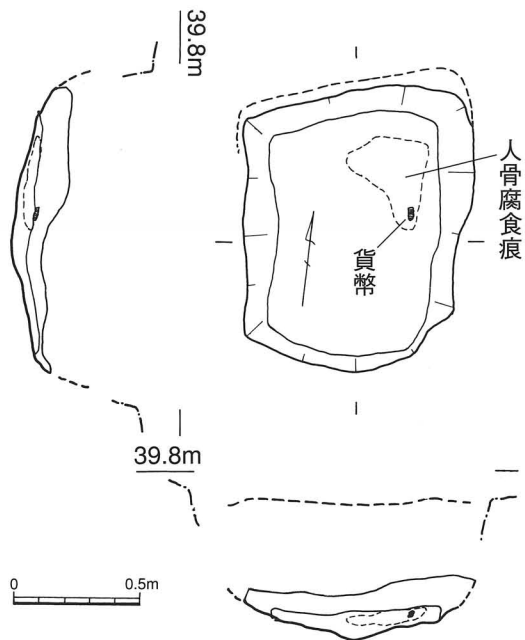
16号土壙



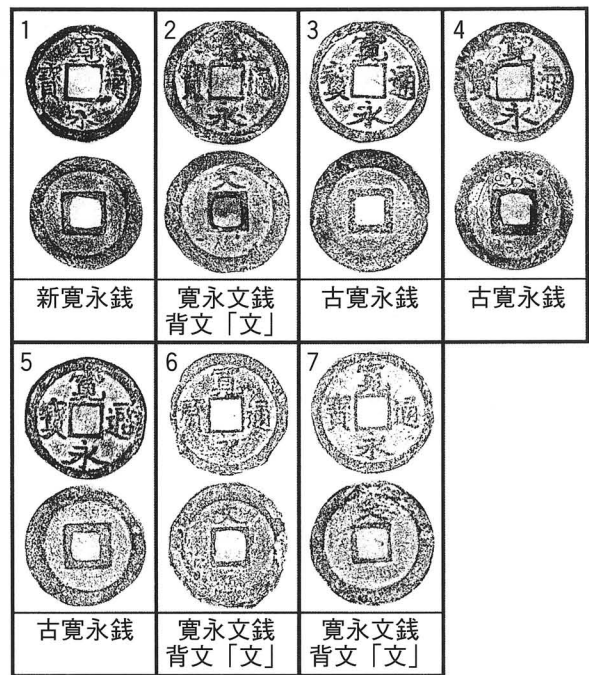
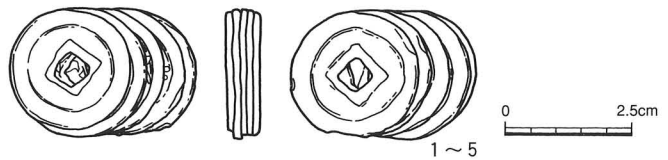
第51図 16号土壙実測図 (1/30)



第52図 16号土壙出土貨幣実測図 (2/3) 計7枚



第53図 17号土壙実測図 (1/30)



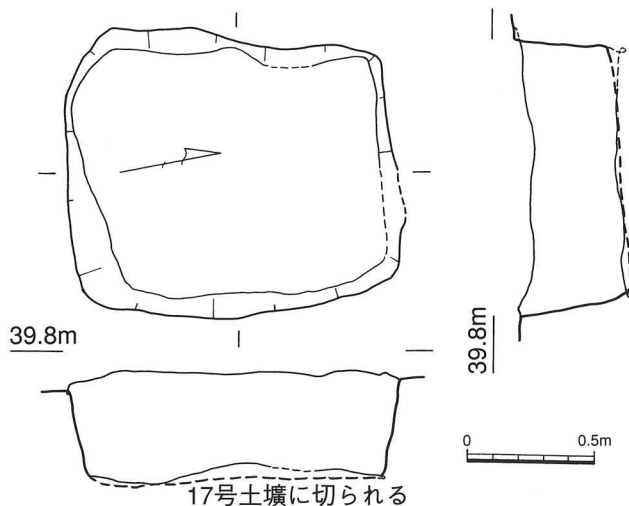
第54図 17号土壙出土
貨幣実測図及び
拓影図 (2/3) 計7枚

17号土壙

13号土壙の西隣で検出された。18号土壙、52号土壙を切る。検出時は、18号土壙と区別が付き、床面付近のみ、形状が確認された。残存長軸1.2m短軸0.94mで、残深は0.55mを測る。N-6.5° -Wに主軸をとる。床面北側で、人骨が腐食したような跡が確認された。床面直上で、貨幣が7枚セットで出土した。すべて寛永通寶である。



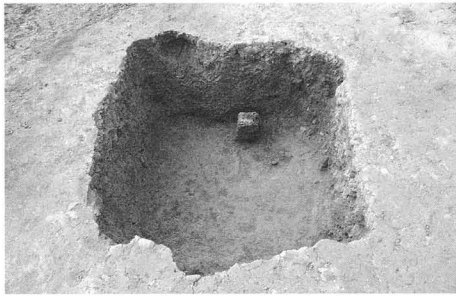
17・18号土壙



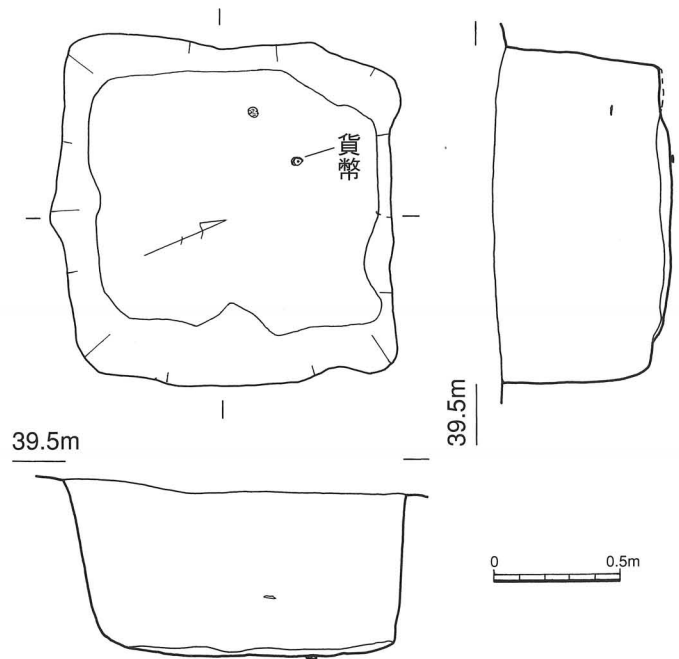
第55図 18号土壙実測図 (1/30)

18号土壙

17号土壙とほぼ重なって検出された。17号土壙に切られ、52号土壙を切る。土壙の形状は、長軸1.34m短軸1.14mの隅丸長方形で、残深は、0.44mを測る。土壙の主軸は、N-11° -Eである。遺物の出土はない。



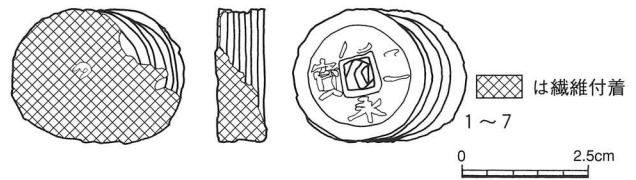
19号土壙



第56図 19号土壙実測図 (1/30)

19号土壙

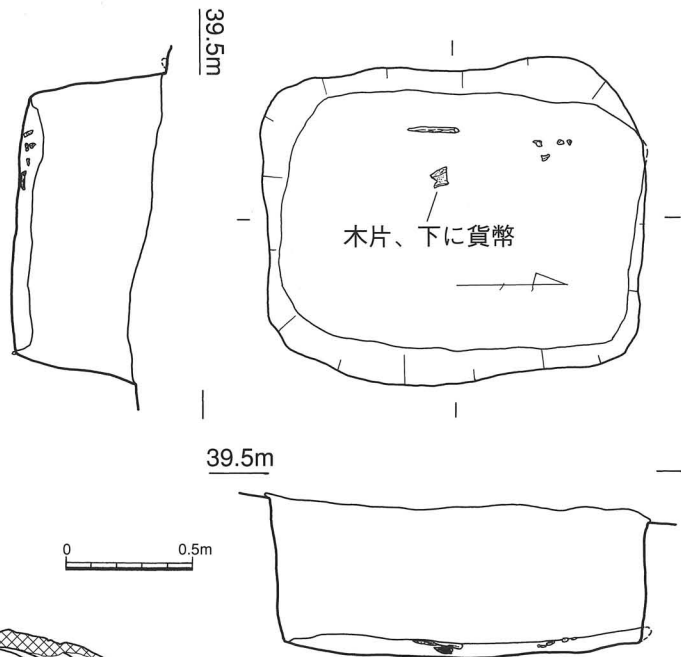
A区中央で検出された。土壙は、長軸1.38m 短軸1.39mの隅丸方形で、残深0.7mである。床面から約20cmの高さで、人骨が発見された。床面直上から貨幣7枚が繊維に覆われた状態で出土した。密着した状態で保存処理を施した。



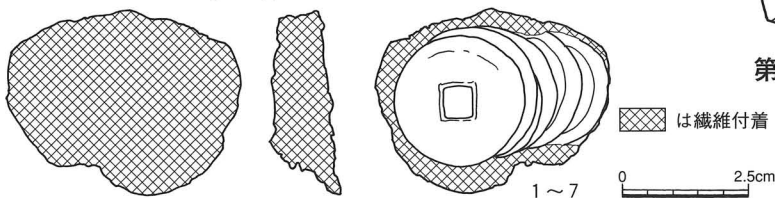
第57図 19号土壙出土貨幣実測図 (2/3) 計7枚



20号土壙



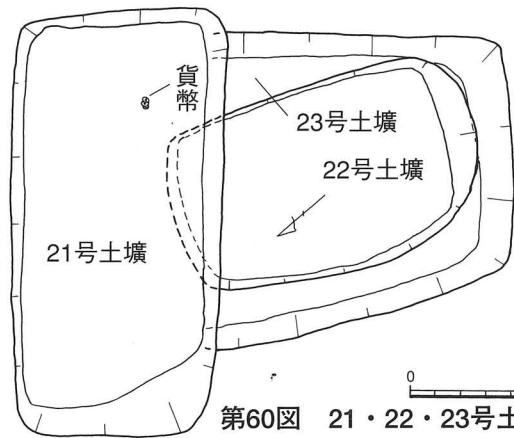
第58図 20号土壙実測図 (1/30)



第59図 20号土壙出土貨幣実測図 (2/3) 計7枚

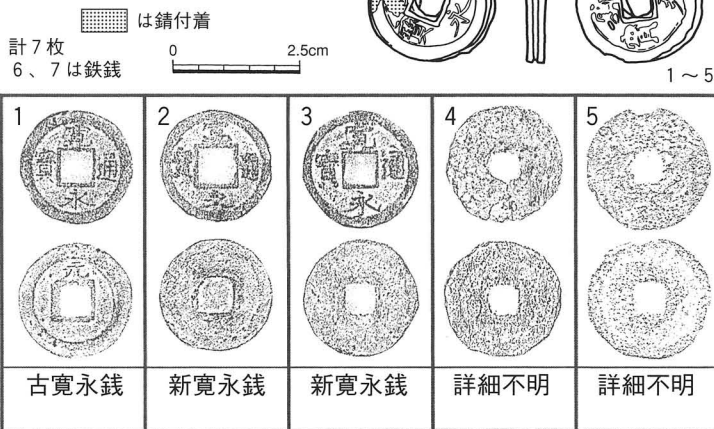
20号土壙

A区北側で検出された。土壙は、長軸1.52m短軸1.28mの隅丸長方形で、残深0.65mを測る。主軸は、磁北をとる。床面直上で人骨及び木片が出土した。木片の下から、貨幣が7枚セットで出土した。貨幣は繊維に覆われていたため、そのままの状態で保存処理を施した。



第60図 21・22・23号土壙実測図 (1/30)

第61図 21号土壙出土貨幣
実測図及び拓影図 (2/3)



21・22・23号土壙

A区南東で切り合って検出された。古い順に21号土壙、22号土壙、23号土壙である。

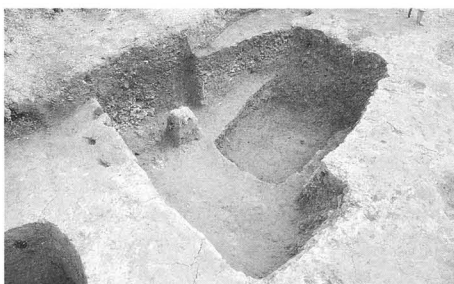
21号土壙の形状は、長軸1.67m短軸0.85mの隅丸長方形を呈し、残深0.58mである。主軸は、N-49° -Wをとる。貨幣が7枚出土した。1～5の銅銭のうち、1～3は寛永通寶、4・5は詳細不明である。6・7は鉄銭で詳細不明。他に鉄釘が出土している。

22号土壙の形状は、長軸1.24m短軸0.76mの隅丸長方形を呈し、残深0.22mを測る。主軸は、N-25° -Eをとる。人骨や遺物の出土はない。

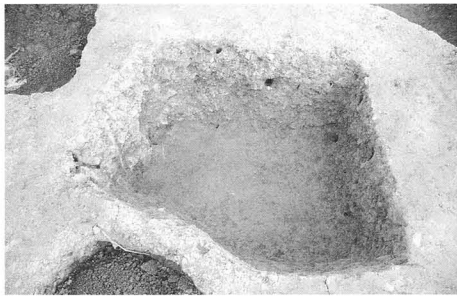
23号土壙の形状は、長軸1.21m+a、短軸1.25mの隅丸長方形と考えられ、主軸は、N-34° -Eをとる。人骨や遺物の出土はない。



21号土壙



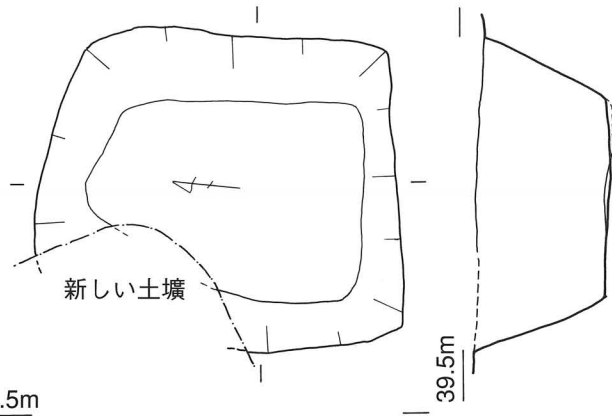
21. 22. 23号土壙



24号土壙

24号土壙

A区中央で検出された。土壙北西部を新しい土壙に切られる。24号土壙の形状は、長軸1.45m短軸1.28mの隅丸長方形で、残深0.56mを測る。N-6° -Eに主軸をとる。人骨の出土はなく、土壙東側上面で、貨幣破片が1枚出土した。埋土に混入していたものと思われる。他に鉄釘が出土している。

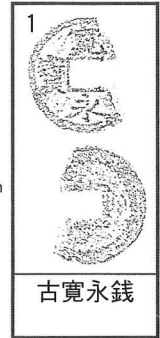


39.5m

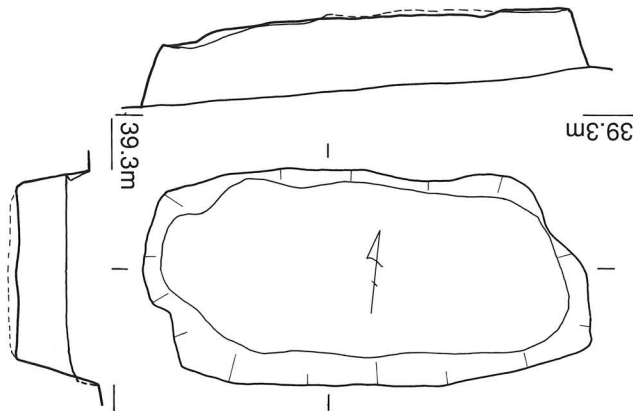
39.5m

第62図 24号土壙実測図 (1/30)

第63図 24号土壙出土
貨幣拓影図 (2/3) 計1枚



古寛永銭



第64図 25号土壙実測図 (1/30)

0 0.5m

25号土壙

A区北側で検出された。土壙の形状は長軸1.75m短軸0.86mでの隅丸長方形である。残深は0.39mを測る。主軸の向きは、N-85.5° -Eである。人骨や遺物の出土はない。



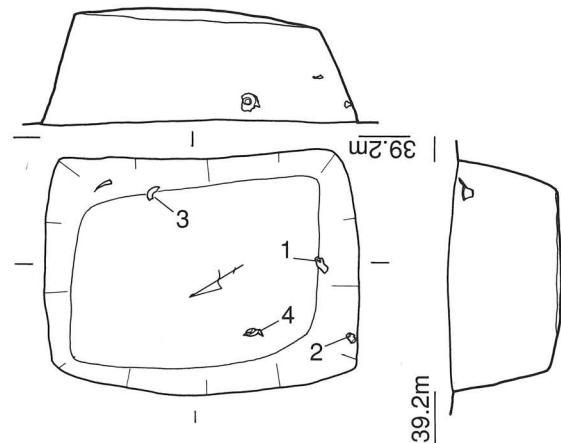
25号土壙



26号土壙

26号土壙

A区北端で検出された。土壙は、長軸1.23m短軸0.96mの隅丸長方形で、残深0.45mを測る。主軸の向きは、N-30.5° -Eである。人骨の出土はない。

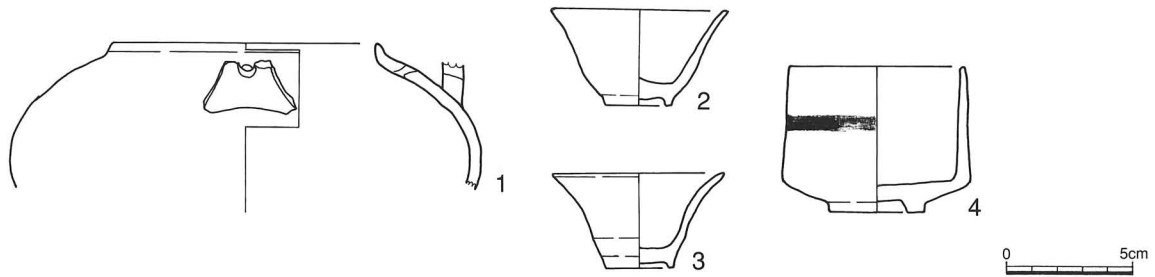


39.2m

39.2m

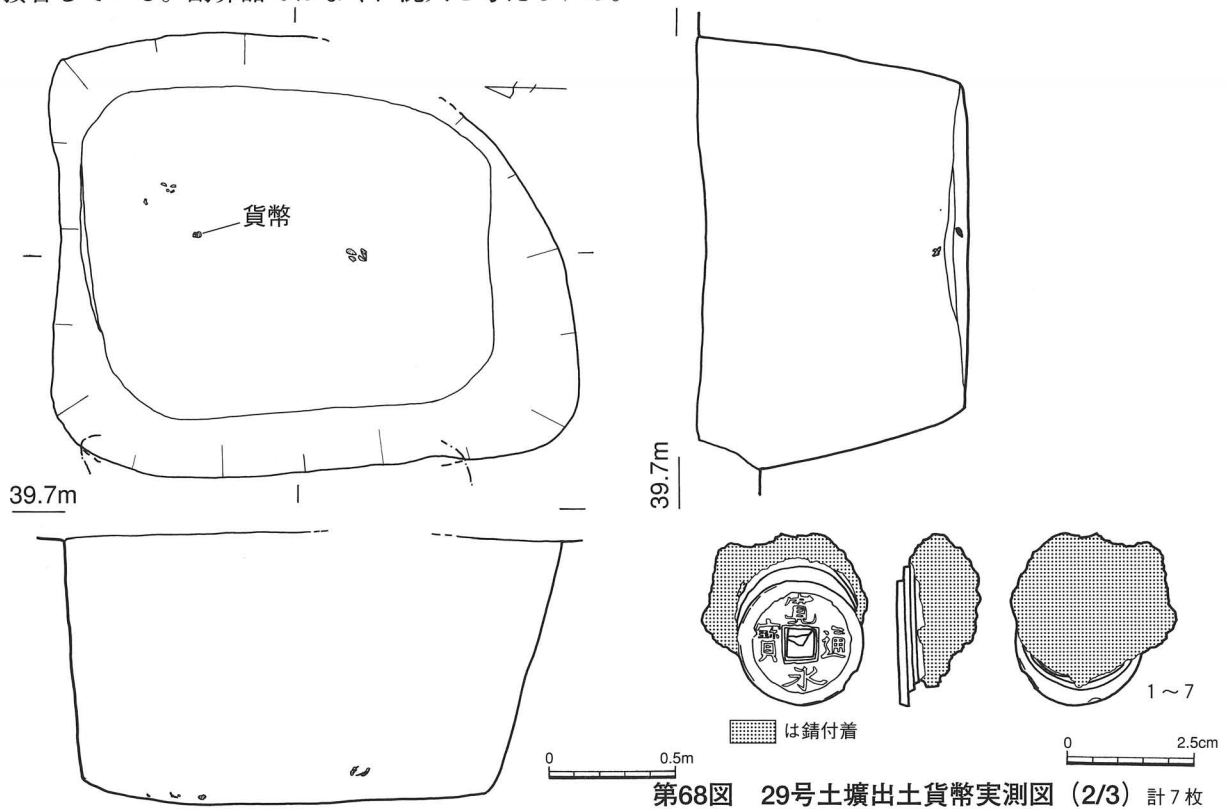
第65図 26号土壙実測図 (1/30)

0 0.5m



第66図 26号土壙出土遺物実測図 (1/3)

陶磁器 5 点が出土した (第66図・表 4)。いずれも、土壙上位で出土しており、1・3は、表土遺物と接合している。副葬品ではなく、混入と考えられる。



第68図 29号土壙出土貨幣実測図 (2/3) 計7枚

第67図 29号土壙実測図 (1/30)

29号土壙

A区南側、14号土壙と15号土壙の間で検出された。北側の41号土壙、44号土壙、南側の42号土壙、50号土壙を切る。土壙の形状は、長軸2.07m短軸1.75mの隅丸長方形で、残深は1.07mを測る。土壙の主軸はN-1°-Wをとる。床面直上と約10cm上位で人骨が発見された。床面直上で、貨幣が7枚のセットで出土した。貨幣は、鉄錆が付着し、分解困難であったため、そのままの状態、保存している。このほかに、鉄釘が出土している。



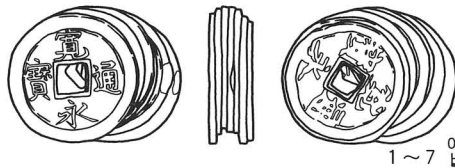
29号土壙

30号土壌

A区東側で、16号土壌に切られた状態で検出された。土壌の形状は、長軸1.3m短軸0.98mの隅丸長方形で、残深0.64mを測る。主軸をN-23.5°-Eにとる。土壌の中央、床面直上から人骨が発見された。土壌西側では、貨幣が7枚のセットで出土し、すべて寛永通寶である。



30号土壌

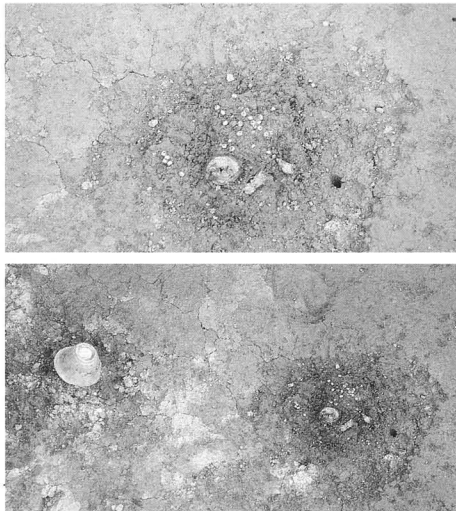


1	2	3	4	5	6	7
寛永文銭 背文「文」	古寛永銭	古寛永銭	新寛永銭	新寛永銭	古寛永銭	古寛永銭

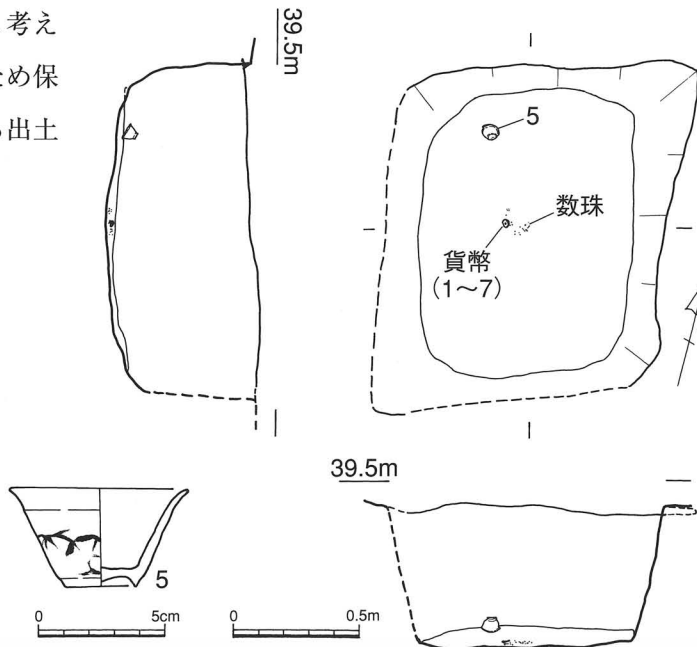
31号土壌

20号土壌の西側で検出された。32号土壌、33号土壌を切る。土壌は、長軸1.4m短軸1.29mの隅丸長方形を呈し、残深0.58mを測る。主軸は、N-14.5°-W。人骨は発見されない。貨幣19枚が出土した。

1～7は床面直上で出土し、副葬品と考えられる。1～6は繊維が付着していたため保存処理を施した。8～19は、土壌脇から出土



31号土壌

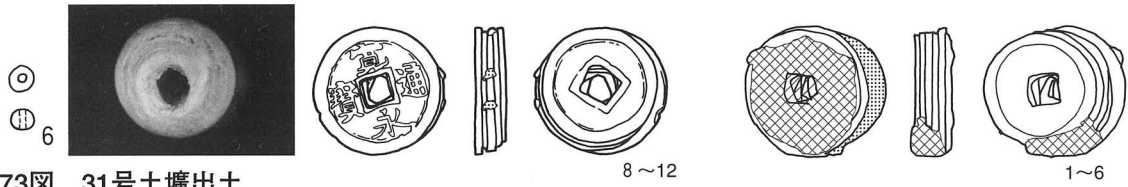


第72図 31号土壌
出土遺物実測図 (1/3)

第71図 31号土壌実測図 (1/30)

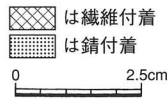
第69図 30号土壌実測図 (1/30)

第70図 30号土壌出土貨幣
実測図及び拓影図 (2/3) 計7枚



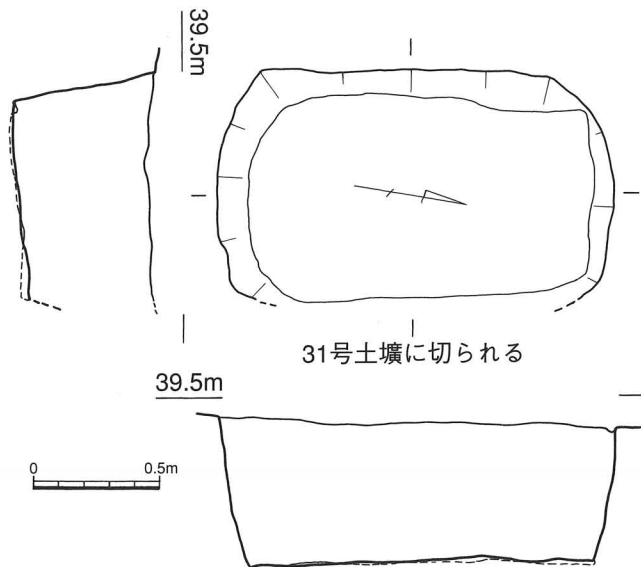
第73図 31号土壌出土
遺物実測図 (2/3)

し、混入品と考
えられる。陶磁
器 (第72図・表
5) 1点と、数
珠玉 (第73図・
表5) 37点が床
面直上で出土し
た。数珠玉はほ
ぼ同様のため、
1点のみ図化し
た。このほか、
鉄釘が出土して
いる。



第74図 31号土壌出土貨幣実測図及び拓影図 (2/3) 計19枚 15~19

7	8	9	10	11	12	13
新寛永銭	古寛永銭	寛永通寶 詳細不明	新寛永銭	新寛永銭	新寛永銭	新寛永銭
14	15	16	17	18	19	
新寛永銭	新寛永銭	寛永通寶 詳細不明	新寛永銭 背文「?」	新寛永銭	新寛永銭	



第75図 32号土壌実測図 (1/30)



31・32・33号土壌



32号土壌

32号土壌

31号土壌の西側に位置し、同土壌に切られる。土壌の形状は、長軸1.55m短軸0.95mの隅丸長方形を呈し、残深0.6mを測る。土壌の主軸は、N-10° -Wである。人骨や遺物の出土はなかった。

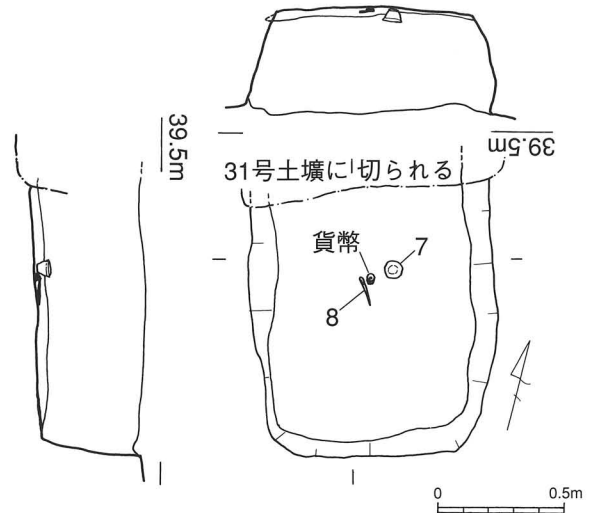


33号土壙

33号土壙

31号土壙の南側に位置し、同土壙に切られる。土壙の形状は、長軸1.1m短軸0.98mの隅丸長方形を呈する。残深0.44m。主軸は、N-14° -Wである。人骨は発見されず、土壙中央床面直上で、

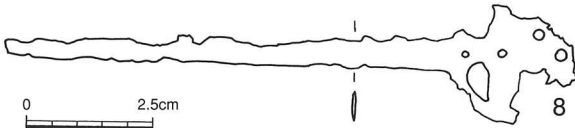
陶磁器1点と銅製簪1点（第77図・表5）、貨幣が7枚セットで出土した。貨幣は繊維が付着していたため、そのままの状態での保存処理を施した。他に鉄釘出土。



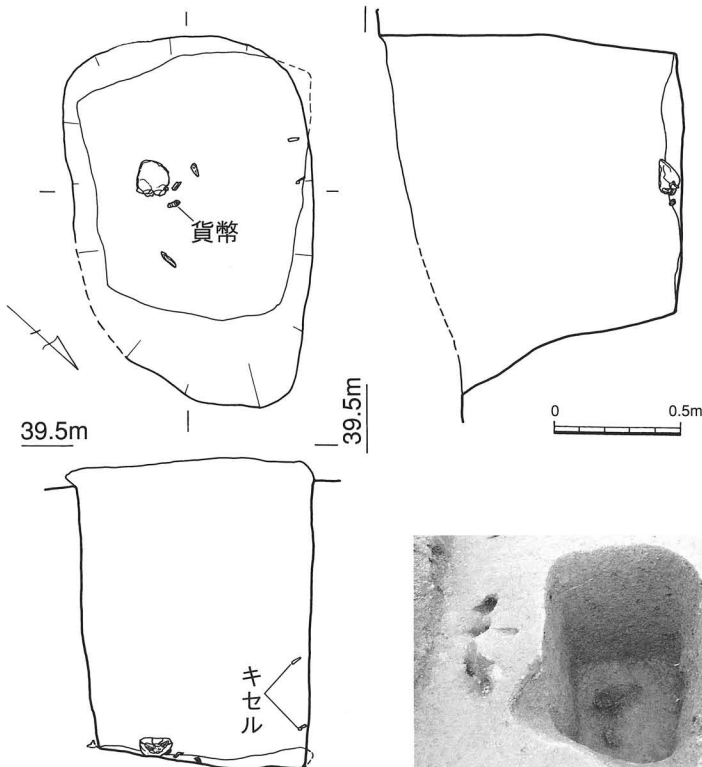
第76図 33号土壙実測図 (1/30)



第78図 33号土壙出土貨幣実測図 (2/3) 計7枚



第77図 33号土壙出土遺物実測図



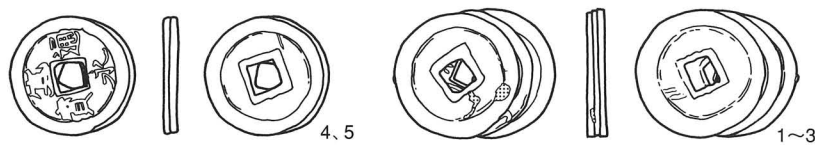
第79図 34号土壙実測図 (1/30)

34号土壙

A区東側で検出。土壙は、長軸1.46m短軸0.99mの隅丸長方形を呈し、残深1.25mを測る。主軸はN-47° -W。土壙中央、床面直上で人骨が発見された。頭骨は、右耳が西、左耳が東、顔面が下を向いていた。頭骨の北側で、貨幣が7枚のセットで出土した。すべて寛永通寶である。壁に刺さった状態のキセルが出土したが、土壙には伴わない。

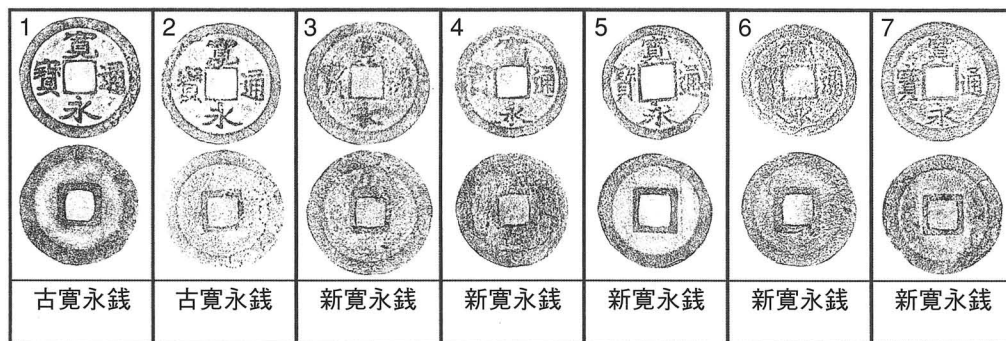


34号土壙

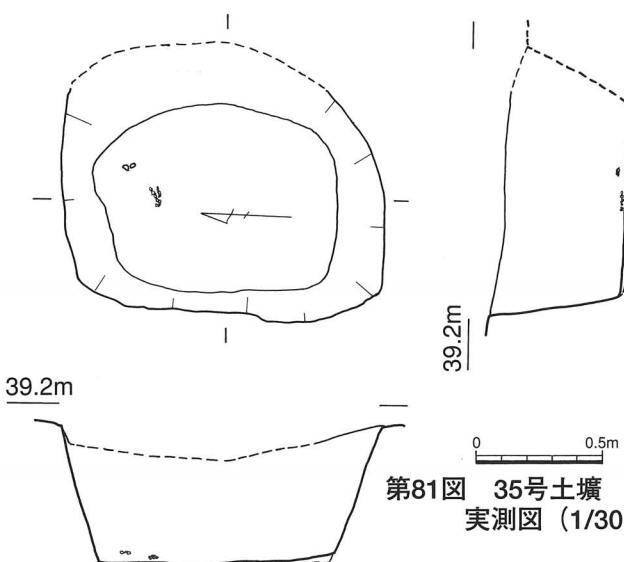


第80図 34号土壙出土貨幣実測図
及び拓影図 (2/3)
計7枚

0 2.5cm は錆付着



35号土壙

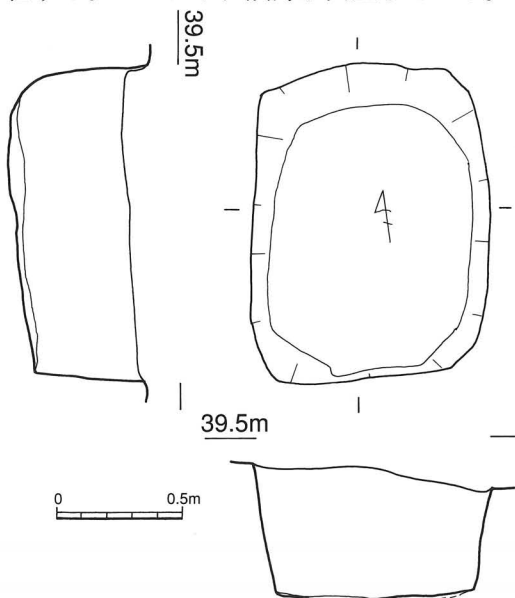


第81図 35号土壙
実測図 (1/30)

35号土壙

20号土壙の東隣で
検出された。北側の
45号土壙を切り、新
しい土壙に切られる。
土壙の形状は、長軸
1.26m短軸1.1mの隅
丸長方形で、残深
0.55mを測る。N-1°
-Wを主軸にとる。人
歯が土壙北側、床面
直上で発見された。

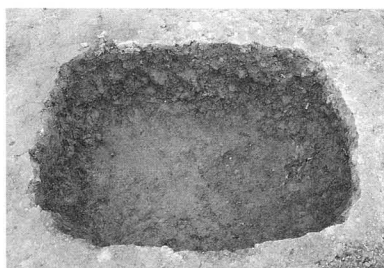
左側の上歯と下歯が配列した状態で出土した。上歯が北側に、下歯が南側に位置し、前歯が西側に位置する。このほか、鉄釘が出土している。



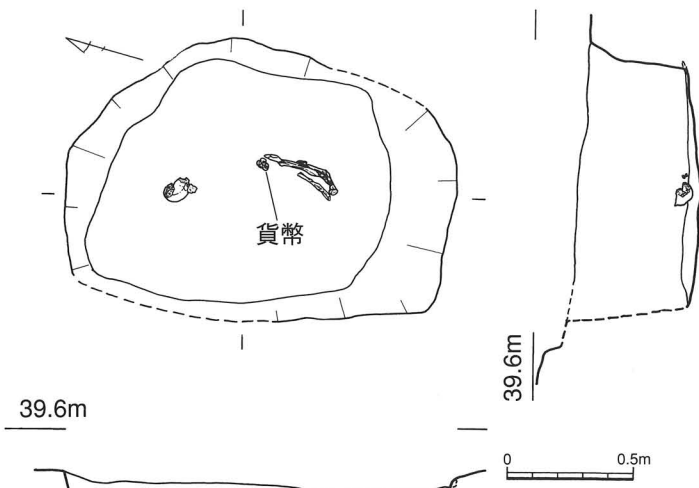
第82図 36号土壙実測図 (1/30)

36号土壙

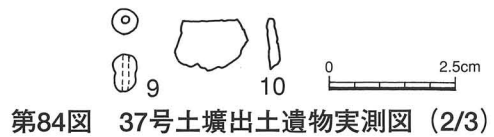
A区中央で検出された。土壙の形状は、長軸1.26m短軸0.95mの隅丸長方形で、残深0.55mを測る。土壙の主軸は、N-9°-Eである。人骨や遺物の出土はなかった。



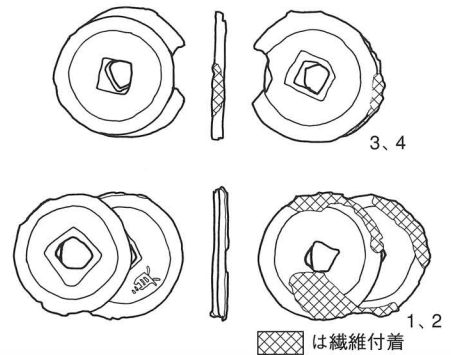
36号土壙



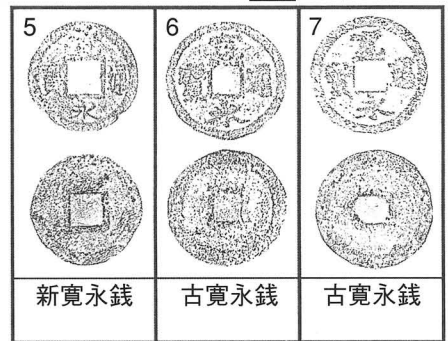
第83図 37号土壙実測図 (1/30)



第84図 37号土壙出土遺物実測図 (2/3)



第85図 37号土壙出土貨幣実測図及び拓影図 (2/3)
計8枚 8は破片



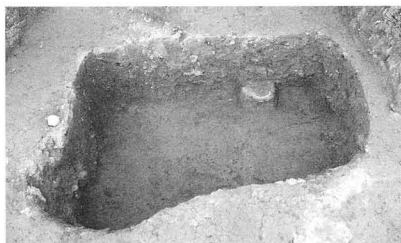
37号土壙

16号土壙の西隣で検出された。土壙の形状は、長軸1.54m短軸1.12mで残深0.49mである。N-15° -Wに主軸をとる。床面直上で、人骨が発見された。北側に頭骨、南側に大腿骨が北に位置する。大腿骨の北に8枚セットの貨幣が出土した。出土貨幣のうち、1・2と3・4は繊維が付着していたため、そのままの状態での保存処理を施した。5～7は寛永通寶、8は破片のため詳細は不明。さらに貨幣とともに、2個体が連なった数珠玉 (9) と、銀色の物質 (10) が出土し、貨幣がきらきらとラメをまぶしたような状態になっていた。分析の結果、この物質は、鋳物片の可能性指摘される。他に鉄釘出土。

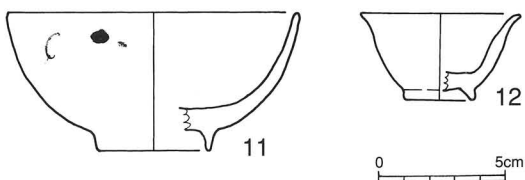


37号土壙

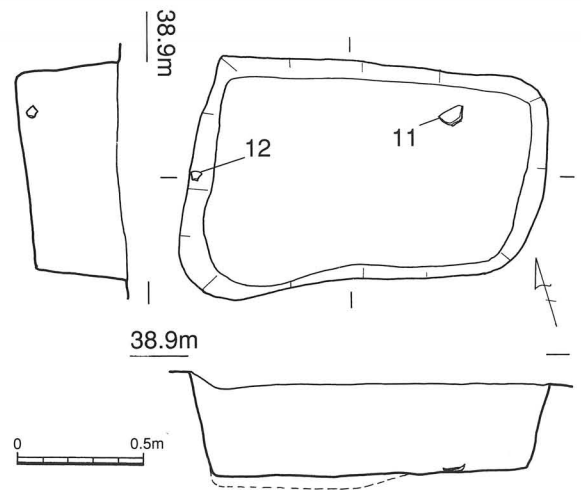
物質 (10) が出土し、貨幣がきらきらとラメをまぶしたような状態になっていた。分析の結果、この物質は、鋳物片の可能性指摘される。他に鉄釘出土。



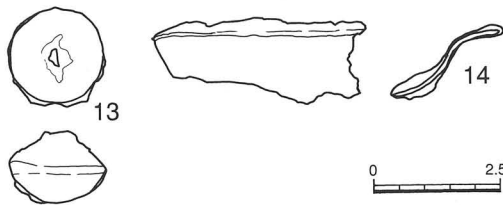
38号土壙



第86図 38号土壙出土遺物実測図 (1/3)



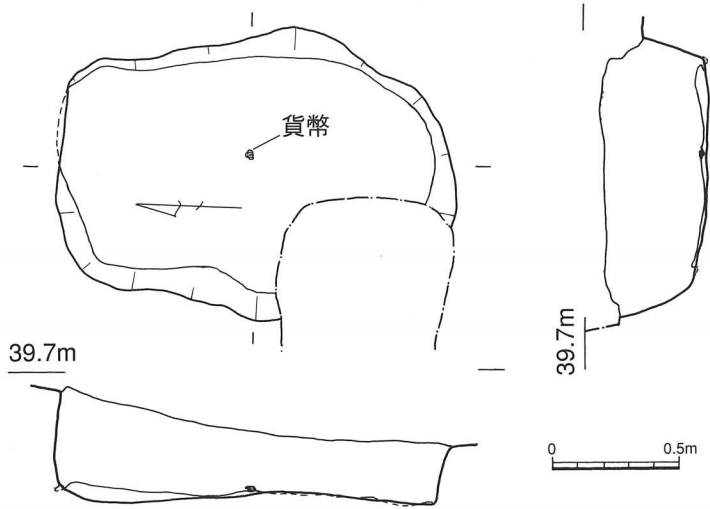
第87図 38号土壙実測図 (1/30)



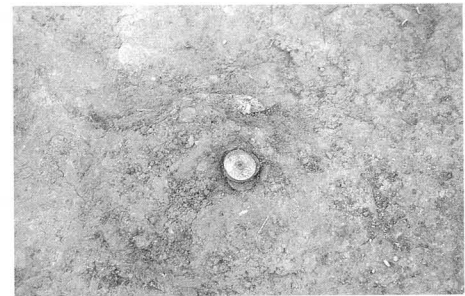
第88図 38号土壙出土遺物実測図 (2/3)

38号土壙

A区北東端で検出された。土壙は、長軸1.45m短軸0.95mの隅丸長方形を呈し、残深0.41mを測る。N-76° - Wが主軸である。陶磁器片が2点出土し、11は床面から約5cm上位で、12は土壙上面で確認された。このほか金属製品が2点出土した。13は鈴、14は容器片である。遺物は、土壙に伴うものかは不明である。



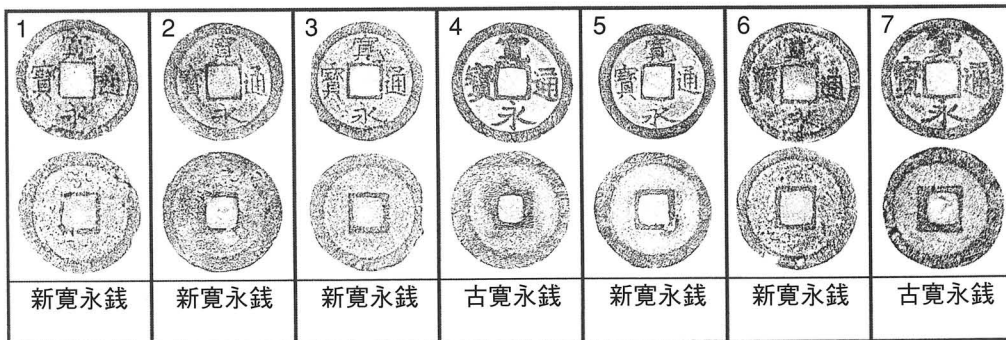
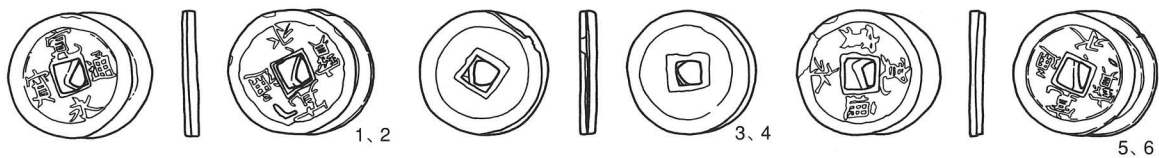
第89図 39号土壙実測図 (1/30)



39号土壙

39号土壙

A区南端で検出された。土壙の形状は、長軸1.57m短軸1.15mの隅丸長方形で、残深0.45mである。主軸をN-25° -Wにとる。貨幣が7枚セットで出土した。1～7は寛永通寶である。



第90図 39号土壙出土貨幣実測図及び拓影図 (2/3)
計7枚